婦人衛生雜誌

大正二年四月二十日發行

明治二十二年十二月二十一日第三種郵便物認可（毎月一回）
明治二十一年三月二十八日內務省許可（廿日發行）

第二百十一號

婦人衛生雜誌

第二百八十一號目次

私立大日本婦人衛生會

五月例會通知

來る五月三日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校內に於て本會例會相開き左の講話有之候間御知友御誘引御出席被下度候也

脊柱の彎曲　醫學博士　田代義德君

大正二年四月

私立大日本婦人衛生會

前髪心の覇王 美人印ヘーヤロール

弊店製造の特許ヘーヤロールは原料を遠く濠洲に仰ぎ新歸朝者美容術界の明星たる岡崎ヱン子女史が母國への土産として持ち來りしものに大改良を加へ衛生と經濟とを兼備したる逸品なる事貴婦人界既に定評あり

ヘーヤロール前髪心壹個の目方

壹尺中	貳匁四分
壹尺貳寸大	三匁四分
壹尺五寸極大	五匁五分



婦人衛生雜誌第二百八十一號
（大正二年四月二十日發行）

講演

人體自然の防備

醫學博士　遠山椿吉

一

人體に防備のあることは、恰も國家に兵備のあるのと同樣である。それで國家の兵備は之を強大にする必要があれば、所謂強兵の策あるが如く、人體に就ても必要があれば、隨つてそれを強盛にする策も起つて來るのであります。で此話を致しまするのには、生理、病理、解剖等專門のことに亙りますから、兎角にむづかしい、面倒臭いことをも申さなければなりませぬが、左樣御承知を願ひます。

そこで第一に、何が故に人體に自然の防備と云ふやうなものが必要であるかと云ふと、人生、即ち生きて居らんが爲に必要である。然らば其人生とは如何なるものであるかと云ふ問題に就ては、種々の議論があつて、哲學者、宗教家などは、いろ〳〵の說を爲して居りますが、私は生物學の方面から、人生の最大目的は生命である、生命と云ふ目的の爲に種々の防備の必要があると、斯う申すのであります。其生命と云ふことを、尙詳しく申しますると、大體斯う云ふことになります。

- 生命
  - 自衛
    - 榮養
    - 防禦
  - 繁殖
  - 進化

生命と云ふことを三通りに分けて、第一は自衛です。自分の生命を保存しやうとするには、自ら守らなければならぬ。守るにはどうするのかと云ふと、一は

榮養である。人間の身體も金を使ふのと同じで、使ふ一方では貧乏になりますから、使つたゞけの品物は又補つて行かなければならぬ、それが所謂榮養です。此榮養が無ければ生命は續かなくなる。二は防禦、生物には種々の敵がある。昔から男子一たび家を出ると七人の敵があると言つて居るが、七人どころではなく、生物の周圍は悉く敵である、故に其敵に對して防備をしなければならぬ、兎に角防備と云ふことが無ければ、自衛と云ふことは出來ない、だから一面には榮養でもつて消費した所の勢力を補ひ、一面には防禦をして種々の害を避けるので初めて自衛の目的が達せられるのである。然らば人間は自衛だけで生きて居つたら、それで最後の目的が達せられるかと云ふと、さうは行かぬ。其外に第二の繁殖—是は生殖と言つても、或は子孫繼續と言つても宜しい。昔から能く靈魂の不滅と云ふことを申します。靈魂の不滅と云ふことはどうか知りませぬが、吾々生物學者の方ではさうでなくして、吾々の生命は不滅であるとして居ります。例へば私の生命にした所が、成程昔から遠山椿吉と名乘つては居なかつたでせうけれども、兎に角私の前の身體即ち生命は幾千萬年、否殆ど數へることの出來ない程古き昔から存在して居つたに違ひない。決して石が化し、金が化けて遠山椿吉となつたのではない、而して又將來に向つても、數百年、數千年の後までも此生命は繼續して居るのである。佛教の方では生者必滅とか言つて、生きて居る者は必ず死んで了ふと說いてあるが、生物學上からは之を信ずることが出來ませぬ。吾々の身體は決して死ぬべきものではありませぬ。其證據には今日未だ人間だけは出來ませぬけれども、其他の動物或は植物にしましても、或る方法を用ひさへすれば、永世無限に此固體を存して置く方法がある。どうするのかと云ふことは、別問題になりますから今日は申しませぬが、兎に角吾々の身體は幾らでも生きて居る、併しながら或る關係から死することがある、是は死すべき運命が來て死する

ことになるのです。一體此死と云ふことは唯だ名が變るだけであつて、吾々の身體は常に死につゝある。又生きつゝある。極く簡單の例ですが、私の髮の毛は先月刈つた、所が又伸びて來たので昨日又刈つた、所で此髮の毛は私の細胞から出來たものであつて、先きの方は刻々死につゝあるが、本の方は刻々又生れつゝある、吾々の身體の組織なる小部分は生れた第一日から死に初める、さうして又新しいものが生れ變りつゝある。御承知の通り動物及び植物は、細胞から成立つて居る。目に見えない程小さい所の細胞なるものがあつて、各々獨立した生命がある。其細胞が集つて動物となり、植物となつて居るのであるが、高等なる動物になるに從つて、其細胞の數も多くなり、働きも多くなる。それだけの違ひがあるだけで、一の細胞も大なる動物と毫も變らない、さうして其細胞は始終死につゝあるのであります。之を大きく申しますると、日本國と云ふ有機體は幾ら經つても死なない、けれども日本國を形造つて居る所の國民は、日々死につゝある、又生れつゝある。是と同じことで、吾々の身體なる國家も常に片端から死しつゝある。卽ち吾々が入浴して石鹼などを付けて洗ふと垢が出る、あれなども細胞が死んで剝げて落ちるのである。さうして直に其後から新しいのが生れて來る、であるから、人間が死んだと云つても全體が死ぬ譯ではない。吾々も何時か死ぬことになりますが、吾々と云ふものゝ全體が決して死ぬのではなく、吾々の身體の一部分は必らず生き殘つて居るのであります。卽ち吾々の身體は無數の細胞から成立つて居るので、吾々の死と同時に其細胞は別箇のものとなつて生存をつゞける。卽ち我の分身たる子孫である。此通り生命と云ふものは永遠に存在するものであつて、決して消滅すべきものでない。生物は何でも無限に存續するのであります。而して此生命の存續は何に依て出來るかといふと、卽ち子孫繁殖である、但だ一個體の人間を其儘で存續することは出來ませぬ。人間は出來ないばかりでなく、永

く生きて居ると第三の目的に矛盾するからである。然らば人間は生きて、食つて、働いて、子を生んで行くだけで、それで目的が全く盡きたのかと云ふと、それではまだ完全に目的を逹したとは云へぬ。一體吾々の身體は、太古の昔から斯う云ふ立派な形をして居つたものではなく、單簡なる細胞に過ぎなかつたのである。段々と進化して終に今日のやうに立派なものとなり、萬物の靈長だなど丶言つて、殆ど別箇のもの丶やうになつて來た。若し是が全く進化しなかつたならば、人間の種族と云ふものは全く滅亡して了つたか、又は猿より以下のものとなつたかも知らぬ。所が進化の爲に吾々の長き生命が保たれることになるのである。だから生命を續かせる爲には進化と云ふことが必要である。玆に謂ふ進化とは、今日の言葉で言ふ向上、上の方へ向ふと云ふことであつて、此進化が無ければ吾々の生命を長く存續せしむることは出來ずして滅されてしまう。斯う云ふ風に今日生物學上から人生と云ふものを論じて居るが、私の今日御話致さうと云ふのは其一の防備と云ふことであります。

二

そこで吾々は、敵に對して防禦をしなければならぬと云ふことを申しましたが、其敵なるものに二種ある。第一の敵　無生物の敵、即ち生きて居らないもの、第二は生物、即ち吾々と同じやうに生きて居る敵であります。世の中の森羅萬象、一として此生物無生物の外に出でないが、吾々は常に此敵に對して防禦し、此敵と戰ひつ丶あるのであります。若し此敵に負けたならば、吾々の生命を保つことが出來ませぬ。所が今日の人間の身體と云ふものは段々進化し來つて、餘程巧に、又完全に出來て居るのであります。それで之が全部に亙つて詳細に御話するには、なか〱短い時間では出來ませぬから、其中最も著明にして、御分りになり易い所だけを搔摘んで申上げやうと思ふのであります。

無生物の敵と言へば、申すまでもなく機械學的の敵、

理學的の敵、化學的の敵であります　先づ第一の敵、機械學的の敵に出會ひますると、別に意識を用ひずして、之に備ふる運動が起る。極く手近な例で申しますると、自分が何氣なしに立つて居る所へ、横から目の前に棹を突出す、成は蟲が目を狙つて飛んで來ると、其瞬間に電光石火の如く、自分は意識せずして體を交はす、或は目を閉ぢると云ふ運動を起す。其敏捷なることは瞬間の瞬の字に別る、此運動を反射運動と言つて居る。それから目の中に何か埃のやうなものが入ることがある、其場合にも或る程度までは醫者の手術を要せずして治るのである、それは何故かと云ふと、目に埃が入ると云ふと、サア埃が來たと云ふので、目の中から盛に水を注ぎ掛ける、即ち涙です。此涙は恰度水道の栓を抜いたやうに、而かも其水の出方は規則正しく出て來て、其埃を目の外へ流し出す、是は素人の方でも能く注意さるゝと分りますが、目の上外の方から下内の方に向つて涙を注ぎ掛けて其物を外へ押出すと云ふ、極めて立派なる仕掛である。此防禦は大きい芥計りでなく、不絶微塵も之に依て押出しつゝある。斯う云ふ防備があるので吾々の目を安全に保つことが出來ます。殊に東京の如き風塵の激しい中に生活して居りながら目を健全に保つて居るのは、全く斯う云ふ防備がある爲であります。もう一つの例を申しますると、蟲が飛で來て耳の中に入ることがある。さう云ふ場合にはどうなるかと云ふと、其蟲が耳の中で自由に活動して吾々の耳を惱らせ苦しませるかと云ふに決してさうではない、第一耳の中には澤山の毛が生えて居る、一體、毛と云ふものは總て防備の機關でありまして、之でもつて種々のものを濾過し、極めて微細なるものでなければ通過させないと云ふ働をする。耳の中にも鐵條網の如く無數の毛が生えて居て、外から來たものを肝腎の所まで行かせない、加之ならず耳の中には敵を殺す所の一種の毒物がある、其事は後にも尚申しますが、一種の毒を含んで居る脂があつて蟲を殺す。さうして其脂は機械的に物を粘

付る性質を有つて居るので、其脂の爲に粘付いて奥へ行けないやうになつて居る。此場合に毛の貴重なることをちよつと申さなければなりませんが、全體毛と云ふものは、斯う云ふ工合になつて生えて居るのです(第一圖說明)。此Aと書いてあるのは、是は表皮です。Cと書いてあるのは毛、Eと書いてあり、管のやうになつて、外の方へ向つて口を開いて居るのは汗の腺です。毛の根は斯う云ふ深い所にあつて、其途中に葡萄の房のやうなものがある。それから又此Dと書いてある所の横穴があつて、一種の分泌物が毛に注がれる。即ち皮脂腺で、之から絶えず脂を此の根の所に注ぐのです。全體人間の身體と云ふものは、恰度蟹や龜が甲を被つて居るやうに、或は此机の木の上に塗だか、ニスだかゞ塗つてあると同じやうに、極く堅牢なる物質を以て薄く覆ふて居る、而かもそれは全く生命の無い無機物同様のものであつて、痛くも痒くも何とも無い、さう云ふものが人身の表面ばかりでなく、口の中も腹の中も、肺臟、心臟と云ふやうな極く細かな部分に至るまでも、恰も木に塗でも塗つたやうに一面に包んで居る。これが表皮であつて、毛髮、爪などは皆此表皮の變化したるものであります。所で鼻の孔の中にも無論澤山の毛が生えて居るが、あれはどう云ふ譯かと云ふと、是も隨分種々の働をして居る、第一に吾々が常に呼吸する空氣と云ふものは、熱帶地方へ行くとか、或は夏の暑い時分には、隨分熱い空氣を吸はなければならぬ、又寒帶地方或は冬の寒い時分には、非常に冷たい空氣を吸はなければならぬが、斯樣な激しい空氣を吸ふと、忽ち呼吸器を痛める。所が此鼻の中は只の空洞ではなく、高低もあり、澤山の毛が生えて居る。此高低と毛との爲に甚しく熱い空氣や、又極く冷たい空氣を、冷したり或は溫めたりして肺の方へ送る、又空氣の中には、無數の塵埃が飛んで居て、空氣と共に吸込むのであるが、此毛の爲に濾過されて清淨なる空氣にして肺臟へ送ると云ふ働きを有つて居るのであります。

此外の機械的の防備を申しまするさ、咽頭には一の特別なる仕掛があつて、外から來る所の敵に抵抗する、今何か埃のやうな物が異なり口から入つて奥へ行かうさするさ、所謂反射運動で、嚏さなり或は咳さなつて外へ押出すことは諸君も御經驗に依つて知らるゝ所でありませうが、更に微妙なる働がある。サテ、人間の生命に肺と云ふものは極て必要なるものである、若し外物が口から入つて咽で止らず、尚奥へ進んで肺に向つて行かうこするさ、此下の云ふ此處に細胞があつて、其頭に細刷毛の樣に毛が生えて居る、それを術語では纖毛上皮さ云ふのです。そこで外から來た所の敵が、咽喉を侵して奥へ進んで行くさ、此細刷毛のやうになつて居る纖毛上皮に觸れる。纖毛上皮は間斷なく働いて居る、其動き方はどうかと云ふさ、何時も内から外へ向つて働いて居る、是は生れるから死ぬまで休みなしに働いて居て、どんな微細なものでも外へ押出す。之が爲めに外から來た空氣が肺臟に達する時分には、極めて清浄なるものとなるのである、以上機械的の敵に對する防備の例であります。

三

次に理學的の敵に對する防備の二三の例を申します。此敵手は光線、音響、熱と云ふやうなものです。光線を吾々が主に受ける所は目である、目の微妙なる働きは、迚も短時間に御話することは出來ませぬが、彼の寫眞機械は目の構造を眞似て出來たのであまりすから、寫眞の機械のもつさ精巧なるものさ思へば先づ凡そ想像することが出來る。所で吾々の目に光線が入つて來まするさ、後ろの方のピントに等しい網膜と云ふものがあつて、自然に物の像が寫るやうになつて居る。普通の光線であれば、寫眞に物が寫るやうに、是は佐藤君の顔だとか、是は高橋君の顔だとか云ふことが直ぐ分るが、猛烈なる光線が來るさ、充血し次では炎衝を起して病氣になる。そこでそれを防ぐにはどうするかと云ふさ、前の方にシボリがある。寫眞のシボリは人が加減してやる

のであるが、目のシボリ即ち瞳孔は自働的に加減せらるゝやうになつて居る。諸君が若し暗い所から急に明い所へ出ると、目が眩んで好く見ることが出來ぬ、暫くして目が光線に堪へられるやうになつて、初めて見えるやうになる。是は暗い所に居つた時には瞳孔、即ちシボリが大きくなつて居るのに、急に激烈なる光線が入つて來ると暫く見えないやうになつて、さうしてシボリが小さくなつてから明瞭に見ることが出來るやうになる。是は光線に對する防備です。

それから音響に就てはどうかと云ふと、音樂のやうな優しいものばかりではなく、吾々の耳は、もつともつと強烈なる波動の大なる音響に出逢ふことがある。すると何の防備も無ければ直ぐに鼓膜を打破られる、鼓膜位ならばまだしも、其奥の最も大事な、人の家で言へば門や玄關位ではなく、奥座敷までも打破られるやうなことになるのであるけれども、耳には又さう云ふ大音響を防ぐ所の仕掛がある。例へば茲に太鼓がある。太鼓は兩方に皮があつて、眞中に木の胴がある、それで一方の皮を打つと裏の皮に波動が傳はつて音響を發する、所が或る程度を越えて一方の皮を打つと、それが爲に他の一方が破れることがある。あれと同じく外から非常に猛烈なる音響が來ますると、耳の行詰りにある所の鼓膜を破つて、尚其中の所謂鼓室と唱へる所の大切なる部分までも壞されるのであるが、然るに此處に(第一圖)Cと書いてある所があつて、是が一の空氣逃路である。さうして其の一方は口へ通じて居る。是は諸君も御承知でありませうが、鼻を強くかむと、耳へ響くことがある。あゝ云ふ時に健康の場合ならば、別に何とも無いが、インフルエンザにでも罹つて居ると、それが爲に黴菌が咽から耳の中へ此道を飛んで行つて、中耳炎などを起すことがありますから、是は注意しなければなりませぬ。即ち外部から非常に激烈なる音響が來ると、耳の中にある紙よりも薄い所の膜が緊張して破れるやうになるのであるが、其場合

に破れないのは、此Cとある所の管から強大なる波動の空氣を口の方へ拔く、恰度蒸汽機關に安全瓣が付いて居つて、蒸汽が或る程度を越えると外へ漏れると同じやうになつて居るのであります。最も此管は此働きばかりでなく其他にも役に立つのでありますか、是は音響に對する一の防備であります。

四

次は熱に對する防備、人間の身體は、或る程度以上の熱には堪へない、又或る程度以下の寒冷にも堪へられないのである。然るに人間の住んで居る所の溫の領分は極めて廣い、隨分寒い所に住んで居る者もあり、又非常に熱い所に住んで居る者もある。所で動物の中に溫血動物と冷血動物とあつて、冷血動物は周圍の溫度に依つて、自分の身體の溫度も變つて行きますが、人間などの如き溫血動物はそうでなく、何時も身體の溫度が平等に保たれて居る。それは何故であるかと云ふと、溫の調節と云ふ一の機關が備はつて居るからである。此の溫の調節に就て、極く簡單に申すと斯うである、吾々が印度洋を横ぎる、或は盛夏の中に暑い處に居ると、血液が皮膚の方へ廻り、顏や身體が赤くなる、さうすると汗が出る、其汗は直ぐに蒸發する、其蒸發する場合には其處の熱を奪つて行くから、それが爲に冷却する、恰度吾吾の身體に巧なる冰囊を付けて居るやうなものである。それから寒い時分にはどうかと云ふと、汗が出る代りに尿になる、尿と汗とは親類のやうなもので、一方が餘計出ると一方は減る。即ち十分だけのものならば、暑い時には汗が七分出て尿は三分であるが、寒い時には尿が七分汗が三分と云ふやうになる、斯う云ふやうにして身體の溫の調和が取れるのであります。それから又吾々の呼吸器、即ち肺臟と云ふものは極く軟かなものである。其軟かな所へ急に冷い空氣や。又は熱い空氣が行くと忽ち害されるから、其處へ行くまでには非常に長い道を通つて行く、其長い道を通つて肺臟に達するまでには、熱いのは冷され、冷たいのは溫められ、恰度可い加減になつて

行くのである。それからもう一つは胃の腑です、吾吾は隨分熱いものを食べる、殆ど火傷でもする位の熱いものを食べる、夏などは御承知の通り氷を食べるのですが、一體人間の榮養分を吸收する主なる機關は胃にあらずして腸である。所で其腸なるものは極めて軟かく出來て居るので、若し强烈なる寒さ、或は暑さに遭ふと、直ぐに害せられて病氣を起す、そこで其防備をする裝置が卽ち胃の腑であります。胃はどう云ふ働きをするかと云ふと、口から冷たいものが這入つて來ると、可い加減に燗をして腸へ送り、又熱いものが來ると冷して腸へ送る、卽ち胃は腸の玄關番である、是も溫に對する調節を爲す防備であります。

五

第三は化學的の敵に對する防備、其最も手近な例は、吾々が燐寸を擦る、或は硫黄を燃やすやうなことがあると、硫化水素と云ふ猛烈なる毒を含んだ瓦斯を發生するから、それを吸ふと非常な害を受けるが、若しさう云ふ瓦斯が、一時に多量に咽へ入らうとすると、電光石火の如く咽喉が閉塞して、奥へ入れないやうになつて居る。之も所謂反射運動です。それから又何か悪い物を食べると下痢をする、或は胸が悪くなつて嘔吐をする、斯樣なる現象も一種の防備であつて、或る程度までは病氣でない。例を以て言へば、雨の降ることは決して天變地異ではなく普通のことである。風が吹く、決して何の害もない、寧ろ或る程度までの雨風はなければならぬ、けれども非常な雨で大洪水などを起すやうなことになるのは普通のことではない。悪い物を食つて下痢をする、或は吐瀉するのは通常の風雨であつて、若し下痢もせず吐瀉もしなかつたならば却て大事になるのです。と云ふものは毒物が腸に入りますと、腸はそれを追出す爲に盛に一種の液を分泌して、一刻も早くそれを外へ送り出す、それが卽ち下痢となる。嘔吐も其通り、悪い物を食べた時には胸が悪くなつて吐く、斯う云ふことは自然の防備である。天の命ずる

所である。惡い物を食べた爲に起る所の反射作用であるから、抑へるにも及ばなければ、驚くにも及ばぬ。併しながら或る程度を超えた時には、それは病氣であるから醫者の治療を乞はなければなりませぬが、尋常の下痢、尋常の嘔吐は自然の現象で、防備機關が活動を起した働きに過ぎませぬ。

以上に無生物の敵に對して吾々には斯の如き防備があると云ふ一班を申したのでありますが、今度は生物に對する防備を御話致して見やうと思ひます。

六

生物の敵には動物の敵と、植物の敵とある。動物性の敵は寄生蟲であつて、植物性の敵は黴菌であります。今日は時間ももう大分遲くなりましたから、此寄生蟲の方のことは止めまして、黴菌の方のことだけに就きまして簡單に御話致さうと思ひます。御承知の通り生物と云ふものは始終戰つて居る、又戰ふのが商賣であるから、戰はなければ生活することが出來ない。然るに黴菌は極めて小さい、顯微鏡で初めて見得る位のものである、其小さいものと吾々の此大きな體――大きいと言つても吾々の身體も細胞の集合であるから決して大きいと云ふのではない、其の小さい細胞と黴菌とが喧嘩をするのです。さうして雙方が激しく格鬪をし、細胞の方が強くして黴菌を負かせば、吾々は健全であり、又若し細胞が黴菌に負ければ吾々は病氣となるのである。所で是は衞生上多少御參考になるかも知れませぬから御話致しますが、吾々の身體に黴菌が入つたからと言つて、吾々の細胞が敗北したとは云へぬ、例へば國と國との戰に於て、敵兵が自國の或る地點に上陸したからと云つて、それが爲に自分の國が敗北したとは云へぬ。それは唯だ敵が上陸したと云ふだけである。黴菌が吾々の身體に入つたと云ふのもそれと同じく、否それよりも、吾々の身體は各種の黴菌を以て充されて居る、或意味から言ふと人間の身體はいろ〳〵の黴菌の雜居地である。其いろ〳〵の黴菌中には、害をしないものもあるが、中には野心を懷いて吾々

を許させやうとする惡黨の黴菌もある。吾々が敵とするのは其惡黨の黴菌です、即ち病的黴菌で、傳染病原たる黴菌です。兎角黴菌と云ふと病氣を聯想する習慣がありますけれども、決して黴菌だからと云つて病氣を聯想すべきものではない。恰度動物が怖いと云つても、動物の中には虎や獅子のやうな猛獸ばかりではなく、牛や馬のやうな人間に必要なるものもあると云ふやうに、黴菌にも恐るべきものばかりではなく、人生に必要なるものが幾らもある。だから黴菌だからと云つて恐れることはない、恐るべきは無用有害なる黴菌であつて、此の黴菌に對しては防備をしなければならぬ、又無論防備もあるのであります。併し有害なる黴菌が吾々の身體の中に侵入したからと云つて決して病氣にはならぬ、今日の世の中には結核の黴菌を有つて居らない人は殆ど無い、是は獨り日本ばかりではなく、地球の表面には結核菌が瀰蔓して居る。他の虎列拉、窒扶斯、ペストなどはさうは行かないが、結核だけは非常に多く現在自分では何とも無いと思つて居る人でも、百人集ると其中の六十人位は結核菌を有つて居る。即ち人間の六十%は結核菌を有つて居るが、そんなら其結核菌があるから病氣かと云ふに、必ずしもさうではない、恰度家の中に火があるやうなもので、火があるから火事かと云ふにさうではない、燃上つて初めて火事となるのである、黴菌があるのに病氣とならないのは何故かと云ふと、身體が壯健である間は黴菌が蟄伏して居つて活動しないのである、所が身體が弱つて抵抗力が減じて來ると、そこで黴菌が活動を始め、病氣となるのである。所で黴菌に對してどう云ふ防備があるかと云ふと、二通りある。第一は人體の組織機關であつて、第二は血液である。で第一の組織機關の防備は亦幾つにも區別することが出來る。

七

先づ第一は皮膚でも、此皮膚と云ふものは、先刻も御話した通り、木を塗かニスで塗つてあるやうに全

身を包んで居つて、此外皮と云ふのは髮の毛のやうに切つても痛くない、或る程度までは無生物と同じやうである。此外皮の完全なる間は決して黴菌の侵入を許さぬ。而已ならず表皮の健全である間は、皮膚から一種の脂を分泌する。先刻申しました耳から分泌する所のものは、黴菌などに對して非常の毒を有つて居るが、其他の部分の皮膚からも脂を分泌する。此脂が黴菌を防ぐに大なる效力のあるものである。醫者が或る手術をするときに自分の手に脂を塗つて置くことがありますが、あれは黴菌を防ぐ爲であつて、黴菌はどうしても脂の層を通過して中へ侵入することは出來ないのであります。然るに此表皮を盛に削落して了ふと、黴菌が侵入するやうになる、吾々の表皮は剃刀で剃ると幾らでも白い粉のやうになつて剝げる、さうして次のマルピギー層と云ふ處までも削取ることが出來る、さうなると、もう黴菌を防ぐことが出來ずして、其處へ黴菌が附著すると忽ち侵入をうける。所で日本人は此表皮を盛に削取る癖がある、是は甚だ宜しくないことである、東京の人などは、殊に西洋風の床屋は下手だと云つて、盛に削取るが、どうも折角の天與の防備を削取ることになるので、面疔とか丹毒などの起るのは是が爲であります。成程人は衞生ばかり考へて居る譯には行かぬ、人に接するには相當に形も整へなければならぬ、髭蓬々として置くのは宜しくないが、それは程度問題である。其一例を御話するが、聊か專門のことに關係することです。本所にペストが出たとか何とか云つて大騷ぎをした時分に、それは果してペストであるかどうかと云ふことを檢定するのには、先づペストの疑ある黴菌を動物に植付けて試驗するものであるが、患者から毒物を取つて來て動物に皮下注射をする、或は皮膚を切つて押込んだりすれば大抵の毒でも感染する、所か眞正のペスト菌であると、毛を剃取つて上皮の一部を削つて、其處へ黴菌を塗つて置くと、それからペスト菌が侵入して其動物は病氣に罹る、若し似て非なる黴菌であると決し

て病氣にはならぬ。斯う云ふことで眞正のベストであるかどうかと云ふことを鑑定するのであるが、此皮膚と云ふものは黴菌に對してそれ位の防備があるものであるから、皮膚と云ふものは十分鄭重に取扱はなければなりませぬ

八

次に吾々は朝に夕に飯其他種々のものを食べるが、其食物には澤山の黴菌が附著してある。煮た物でも必ず沸騰點以上に達したものばかりではない、隨分多くの黴菌があるかも知らぬ、又それを盛る所の椀にも附著して居るから、自然咽喉にも入る譯であるが、どうしてそれが病氣に罹らぬかと云ふと、胃の腑は一種の激烈なる消毒藥を有つて居る、汚い話ですが、少し胃の工合が惡くて噯氣が出ると、一緒に酸い水が出て來ることがある、此水は鹽酸であつて、黴菌に對する最良の消毒藥です。それを年中胃の中に蓄へて置いて、口から入つて來るものを消毒し、無害のものとして腸に送る、腸は脆弱いものであるから、斯うして胃が玄關番をして守つて居るのであります。

次は呼吸器、東京のやうな此紅塵萬丈の土地に住んで居る者は、空氣と一緒に種々の物を吸込むが、別に何等の害を受けないのは何故であるかと云ふと、鼻が濾過する働をして居るのであることは先刻申しましたが、其奥の方にはもつと精巧なる機械がある。吾々が呼吸する所の肺臟に空氣が達するには、非常に長くして細い道を通つて行かなければならぬ、此細長い管を通ることは、黴菌を豫防する一の裝置である、是は容易に試驗することが出來るのであります。今極く細く長い硝子管を取つて、一方より他の一方へ空氣を通過せしむると、其空氣は非常に淸淨なるものになる、是は黴菌などを濾過する働きを有つて居るのであります。それから若しあなた方が傷をして醫者に治療を乞ふと、其創の所へ綿を當てるでありませう、あれは寒いから綿を當てるのではなく、黴菌を濾過せしめ、其侵入を防ぐ爲めでありま

す。恰度東京の水道が砂の濾過池で濾されて綺麗な水になるのと同じである。然らば其通過する所の孔は微菌よりも小さいかと云ふと、さうではない、微菌よりも太くとも、細く長い管は微菌を濾過することが出來るで、吾々の鼻から肺に達するまでの間には、さう云ふ裝置が出來て居るのであります。其裝置のあるが爲に、埃だらけの空氣でも、肺臟に達した時分には、一の微菌も含んで居らぬ所の純潔なるものとなるのであります、醫者が創口へ綿を當てるのもつまり此眞似をしたものであります。

九

以上は吾々の身體の組織機關の防備を申したのですが、今度は血液の防備のことを申します。御承知の通り血液は流動體であるが、それを顯微鏡で見ると赤い球と、白い球とが一種の液の中に混ざつて居る。さうして赤いのは赤血球、白いのは白血球、液體のものを血漿と申します――嚴密に言へば此の液を直ぐに血清と云ふては不穩當ですが、先づ通俗に血清と申して差支へありませぬ。此の血液に極めて微妙なる所の微菌に對する抵抗力があるのであります。殊に近世に至つて免疫學と云ふ一の學問が成立つて居ります。其源は今より百十五六年前英吉利のゼンナーと云ふ人が種痘の法を發明したのに始り、夫れより前世紀の後半に掛けて非常なる進歩を示し、殊に今から二十年前よりは急速に發達して來て一の獨立したる學問となつたのであります。此免疫學に就ては詳細に申しかねるが、大體斯う云ふことです。微菌が吾々を苦しめるのは二つの方法がある、一は微菌其ものが働いて吾々を苦める、一は微菌から出る物質が働いて苦しめるのである。即ち一方は恰度敵が刀を以て斬付けて來るやうなものであつて、一方は地雷火なり水雷を敷設して置いて、損害を與へる。所謂間接の方法で苦しめるのである。所が吾々の血液には其微菌に應じて微菌を殺す力を備へて居る、而して其微菌を殺す方法にも二種ある。一は吾々が天性受けて居る力で、血液中に微菌を殺す所の

働きがある、それは卽ち血液中の白血球である。此白血球を或人は巡査に譬へた、巡査は棍棒又は劍を携へて諸方を巡廻して、若し惡者があつた場合には直ちにそれを取押へる。それと同じやうに白血球は吾々の身體中を巡廻して居る、それは血管の中ばかりではなくして、血管の外までも出て廻つて歩いて、若し黴菌があると、直ぐにそれを捕へて食つて了ふ、それでこれを血液中の喰菌細胞と云ふのであります。此圖(第二圖)の上の半分は血液中にペスト菌が入つた狀態を示したもので、下の半分は血液中に結核菌が入つた狀態を示したものであります。若し血液中に黴菌があると、此圖に見えるやうに其黴菌を悉く白血球が取込んで、さうして間もなく消化して了ふ、斯の如くして吾々は敵に對抗する。恰度巡査が惡者を捕へるやうな、防禦の力を有つて居るのであります。

一〇

次に或る傳染病に對して、生れながら有つて居るのではなく、或る方法で防禦する所の力を有つて居る。それにも二種あつて、一は人力に依つてさう云ふ力を生ぜしめ、一は自然にさう云ふ力が生ずるのである。此の自然に傳染病に對して防ぐことの出來る著るしい例は窒扶斯である、一度窒扶斯に罹つた人は、再び罹らぬのが原則である。譬へて言ふと一たび敵兵に襲はれて、非常なる苦みをしたが、それを擊退すると、次には其の經驗に依つて前のやうに苦みをしないやうになる。それと同じやうに一度窒扶斯菌が身體の中へ入り血液及び組織を侵すと非常に苦む、所が其苦しみを通り越して、又再び元の身體に恢復すると、二度目には窒扶斯菌が身體に入つても、前の時の訓練に依つて病氣とならずに濟む、是は獨り窒扶斯ばかりではなく、他の傳染病にもさう云ふことがあるのであります。所が學問の進歩は斯う云ふ病氣に罹つて黴菌に對する對抗力を得るの外に、人力を以て此力を生ぜしめんと研究した結果、出來上つたのか卽ち免疫法であります。今日之に依つて

最も著しき效果を奏しつゝあるのは、實布的利亞でありますo 血清豫防と血清治療とである、而して學問の進歩は尙ほ之れに止まらず、人工に依つて防備する方法を講じて居りますが、兎に角吾々には以上申述べました如く、種々の自然の防禦力が備はつて居るのであるから、其の自然の防禦力を健全に保つて行つたならば、吾々は十分に健康を保持することが出來ませうと思ひます。

尙ほ此防備の强盛法に就て此機關に對しては斯う云ふ風にすると云ふことをも御話致したいと思ひますが、餘りに長くなりましたから、今日は單に斯う云ふ防備のあると云ふことだけを御話して、又折を得ました場合に更に申上げることに致します。

叢談

森林と衛生

ドクトル Ｅ、Ｏ、述

森林が衛生上に有益なる影響を及ぼすのは、炭酸を消費して、その代りに酸素を排出する所の植物固有の性質に由るのであるとは、今日普ねく知られて居る所であります。それで森林の衛生を述ぶるには、先づ植物の生理解剖を概略申述べる必要があらうと思ひます。

今試に柏の葉でも柳の葉でも一枚採つて御覧になりますと、その表側の方は光澤があつて、一體に暗綠色をして居り、裏側卽ち葉の下面は光澤のない、ぼやけた綠色を呈して居ります。而して少しく注意して觀察致しますならば、往々肉眼を以ても、葉の

下面に多數の點々があるのを認めることが出來るでありませう。若し能く切れる剃刀を以て、この葉の下面から、薄く小片を切り採つて、蟲目鏡の下に眺めますならば、この小點は圓形或は楕圓形の細胞組織に成つて居ることが分かります、これが卽ち裂孔或は氣孔と申すもので、木葉の表皮の細胞と細胞との間に現はれて居るのであります。これは通常所謂收合細胞と云ふ二個の相並んだ細胞で出來て居りまして、その細胞の中には大抵二三の「クロ、フイール」卽ち葉綠素の顆粒を含むで居りまして、半圓形或は半楕圓形をした細胞であります。而してその兩個の境になつて居る壁の眞中の所に長みがゝつた裂目が出來て居るのであります。

この裂孔は、葉の內部の空氣に充たされて居る所、卽ち細胞間腔の出口でありまして、植物の口或は鼻とも稱すべき部分であります、何故なれば、植物の主要なる榮養物質たる炭酸を空氣中より攝取するのは、この孔よりするのでありまして、此處から內部の綠組織に到つて其處で固形の榮養物に變化さるゝからであります。

自然は實に巧妙なる仕掛をしたものでありまして、この收合細胞は、光線の影響に由て開いたり閉ぢたりする性質を具へて居ります。而して炭酸が、今述べた所の裂孔を通じて葉の組織の內に參りますと、そこで、水分に富むだ原形質と葉綠素の顆粒とを含むで居る所の細胞から成つて居る鬆疎の組織に遭遇することになります、これが所謂海綿組織と申すものでありまして、この部分が、水に溶解して居る所の炭酸瓦斯を採つて、その上部に在る所の寨柵組織と云ふ稍や緻密に細胞の集つて居る處に送ります、固形の榮養物質、澱粉及び糖に化成さるゝのは、主として此處で行はれるのであります、故に木の葉のこの鬆疎なる海綿組織は、これを植物の肺に比し、その緻密なる寨柵組織は、これを植物の肝臟と稱すべきものであります。

植物の榮養に於て更に重要なることは、葉から水蒸

氣を發散することであります。即ち葉の全表面並に裂孔より發散するのであります。この葉肉より水分の發散することは、上行液流と申しまして、根から吸上げられた液體が、その消費される場所に昇つて行くその運動を調節するものであります。水と共に土地から攝取して、その中に溶けて居る所の無機鹽類を運びます所のこの上行液流は、主として幹の木質の中にその道を取つて居るのでありまして、これが全植物の體系を成して居る所の血管に比適するもので、極細い根の尖に始まり、主根、幹それから肋骨や神經とも云ふべき枝や葉に至るまで通じて居るので御座います。

植物には、この水を上の方に運ぶ運動を促す所の種種の力が御座います。先づ第一には所謂根壓と申しまして、根に生えて居る所の小さな無數の纖維が水を吸上げるのでありまして、これが既に植物の中に於て餘程の處まで水を壓上げる力を有つて居ります。柳とか樺とが或は葡萄又は西瓜の蔓でも、その葉の生ずる前にこれを切つて御覽になりますと、その切口或は創の處から暫く液汁が流れるのを見てもお分かりになることであります。第二には、反對に今度は葉の方に於て、前に申上げました發散の爲に水分を失ひますから、下の方からこれを補はなければなりません、即ちその下の幹の中にある所の水柱を吸上げるのであります。この水の運動と發散に由て植物の内部は冷却されて、甚しく熱するのを防いで居る譯であります。

以上申述べました如く、植物の綠色の部分、就中葉に於ては、粗末なる榮養物質より、直接植物の有機成分となす所の作用、即ち同化作用が行はれ居りまして、その同化された榮養物質は、葉から枝、更に幹、果實、根と云ふやうに、榮養を要する所の總ての器管に移つて行く、これが所謂下行液流と申すもので御座います。

併しこれは幹の部分だけでは十分でない、寧ろ下行液流は、大部分葉及び木皮の中を通つて居る所の固

有の管や、篩のやうになつて居る軟かい孔を通じて、下の方に行られる仕掛になつて居るのであります
今や發育成長しつゝある所の植物に於きましては、この新しく作られたる所の榮養物質は、枝とか葉とか新しい器官を造る爲に用ゐられますが、之に反して休息の狀態にある所の植物の部分に於ては、その細胞の中に於て、種々の化學的形態にて所謂貯藏榮養物として貯へられるのであります。例へば麻の實の油の如く、或は穀粒、球莖、塊根中の澱粉の如く、尙は樹木及び灌木の木質中にも、冬の間は、その髓の所に多量の澱粉が充たさるゝと云ふやうに、榮養物質が蓄へられるのであります。而して植物が若芽を吹くとか種が萌えるとか再び發育の狀態を現はして參りますと、未だ葉のない植物は、自ら榮養物質を作ることは出來ませんから、これから新しく作らるゝ所の芽と云ふやうな器管の爲には、今まで蓄へて置いた所の榮養物質を消費するのであります。
この同化作用と、植物の衞生的意義とは極めて密接の關係があるのでありまして、草木の葉が太陽光線或は日光の中に於て、周圍の大氣中より一定量の炭酸を攝取してその代りに殆ど同量の酸素を空氣中に出すのであります。これが先づ自然界に於ける唯一の酸素補充機關でありまして、人間や動物の呼吸により、燈火や燃料の燃燒により、死せる動植物の腐敗醱酵により、其他總ての酸化作用の爲に用ひられた所の莫大なる酸素の量を、これで以て補つて居るのであります
植物には、尙ほ空氣の性狀に影響を及ぼす所の他の作用が御座います、それは即ち植物の呼吸作用でありまして、恰も人間や他の動物の如く、その生活して居る間は呼吸を營むのであります。この呼吸作用、即ち酸素を排出して炭酸を消費する所の機能には、光線と云ふものが最も大切なる要因になつて居ります。若しこの光線が無かつたならば、吸入した所の炭酸を分解することは出來ないのであります。斯うなれば植物も矢張主として酸素を消費するやうにな

ります。これは夜間寢室内に植物を入れて置きますと、室内の空氣に不快の影響を及ぼす所以であります。

然るに光線は溫を生じ、溫は運動を生じます。故に若し餘り空氣の運動が無いものとすれば、森林は、夜間よりも晝間に於て多量の酸素を含むことになります。でありますから、空氣の運動と云ふことは、森林中に於て晝も夜も殆ど酸素の平等に分配されて居る主要の原因であります。これが又樹木の間に絶えず空氣の運動を起し、森林の空氣と、其外部の大氣との交換を促す所の瀰蔓作用を呈するものでありまして、實際森林内の空氣と其の外部の空氣とは化學的分析の上に於ては、その成分に大した差異はないのであります。俗間に於ては、斯うは考へなかつた、恐らく今日と雖も尚ほさうであらうと思はれます。この風の運動、空氣の循環には、森林の內と外とに於ける溫度の相違が餘程著しい關係を有して居ります。又木の葉の呼氣及び水蒸氣の發散が、この循環運動に關係を及ぼすものでありまして、これに依て森林の空氣が著しい變化を被むるのであります。へーチルと云ふ人の研究に據りますと、一本の大きは山毛櫸は一日に大約六十リーテルの水を出し、百十五年經つた山毛櫸林は、一ヘクタール每に每日二萬六千リーテルを水分を出すと云ふことであります。(一リーテルは五合餘、一ヘクタールは一町二十五步程に當ります)これを以て、森林の空氣と普通の土地の空氣との差異が分かります。非常に水蒸氣に富むで居ると云ふことは森林の空氣の一特徴であります。森林の上の水蒸氣が雲となつて橫はるものとすれば、大工業地の煤烟よりももつと濃厚と見えるでありませう。尤も工業地の空氣とても、澤山の人間及び動物の呼吸、その他家屋や工場の煙突の烟等に出て絶えず多量の炭酸を吐出されますけれども、空氣循環の强烈なるが爲に、他の土地に比して左程空中の炭酸は多くなつて居る譯ではないのであります。普通大氣中の炭酸の含量は千分中に〇・

三位のものでありまして、學校とか普通の住宅の室内の空氣の如く千分の一乃至二位まで炭酸を含むことになりますと、空氣は鬱惡したものと云はなければなりません。尚ほ千分の五乃至七程になれば已に有害作用を呈します。而して千分の三十乃至四十に至りますと其中に居る者は眩暈、頭痛、呼吸困難を覺え、これよりも僅かに多く炭酸を含めば、其中では燈が消え人は窒息して死ぬることになります

（以下次號）

少女衛生の必要

ヘレチ、ウエンク女史述

A、S、生抄譯

〔これを御覽になれば、獨逸國に於ける目下の衛生狀態、就中男女兒童の衛生は如何なる狀態にあるか、又少しく考のある獨逸婦人は、如何なることを心配し、如何なることを希望して居るか、略ぼ推察することが出來やうと思ひます、且つこれに依て我日本帝國の婦人衛生を顧みらるゝことは甚だ有益なることゝ存じます」譯者

我が獨逸國民の間には、力に充ちたる清新の空氣が漲つて居ります　政府が最近千九百十一年一月十八日の布告を以て、一般少年保護養育を激勵致しましたる以來、社會共同の力を以て、我が國民、我が少年の健康を催進せんが爲に、到處に於て種々の組織を見るに至りました、即ち男子の方々は、その固有の高邁の特性を發揮して、我が男兒等の安寧幸福の爲に、將たその身體的發達の爲に盡す所あり、彼等を自由の自然中に導きて、遊戲競爭をなさしむるに努め、その友となり、助言者となり、指導者となり、如何にこの世界の美なるかを示し、何處にその喜悅と安樂を見出すべきかを示したのであります。我々婦人は、これに向て感謝するものでありますが、併しこれだけを以て滿足することは出來ませぬ、我儕は固より、全力を擧げてこれを贊助したいと思ひますが、我々の男兒の少年養育のみを以て滿足する

譯には參りませぬ、寧ろ我々の女兒の爲に、その生活全般の爲に、特に妻たり母たる天職の爲に、その身體並びに精神を強健に且つ有爲にせんことを大に努めたいと思ふのであります。總ての階級を通じて、母たることの意義を了知せしめなければなりませぬ。且つ少女衛生は、國民衛生の最も重大なる部分たることを知らしめなければなりませぬ。若し強健なる男子を得んと欲せば、先づ有力なる女性あることを要するのであります。唯だ強きものより強きもの生る、とは自然の道理であります。

體育及び合理的生活法に於て、現代は尚ほ如何に衛生上缺陷多きかは、統計を一見すれば分かることであります。即ち獨逸國に於ては、毎年三十五萬の哺乳兒が死亡して居ります。全人口の四〇%は癲癇、六〇%は精神病患者、六〇%は飲酒家、八二%は賣淫と云ふ有樣である。且つあらゆる豫防法を講ずるにも拘らず、結核病の益々蔓延するは、實に驚くに堪えたる次第であります。貧民或は窮民の小屋の内、又農民の通氣惡しき室内に於ては、衛生と云ふことは未だ知られざる學問であります。自宅女工等は、終日脊を屈してその器械に坐わり或は手仕事に勤め、保養の爲めとて新鮮の空氣に浴するの恩惠を得ない。總ての女生徒及び女學生、尚ほ小賣女その他種々の役に勤めて居る少女等は、その坐業の爲に、筋肉は弛緩し、血液の循環を障礙されて居ります。元來女性は、その體格の纖弱なるが爲に、已に小兒時代に於て男の兒よりも病氣に罹り易いのでありますから、これから發達する所の婦人の世代が力に富み、その生活に負はさるゝ所の一切の要求に適せんが爲には、已に幼少の時より身體の系統的衛生を要するのであります。現今の高等女子教育は、大に身體並びに精神力の養成に注意を要することでありまして、然らざれば爲に神經を損することになります。獨逸に於きましては、十六歲乃至二十歲の少女は同年齡の男兒の數に對して七萬二千も餘計になつて居りますから、これに由ても婦人は益々その職務、職

業生活に於て壓迫を受けるやうになることは明かであります。職業に從事して居る九百萬人の婦人中四百萬人は結婚して居りますから、まづ倍程の者が勞働を爲して居る譯であります、それで普通の人間は、特別に幸福の狀態に在つて體質が健全でなければ、その勞働に勝れなければならぬ譯であります。そこで家には母が居らず、榮養及び看護の行き屆かぬために、社會的の事業として、これを救濟するにあらざれば病氣に罹り、精神的の窮迫及び道德的の頽敗に陷るべき、放置して置かるゝ處の小兒の數は驚くばかり多いのであります。

社會的少女保護は、目下特に緊要の事柄であります。伯林に於て少女保護の中央場が設置されました以來、到る處に於て少年の爲に、溫かなる活氣が起りまして、殊に成長しかけの年齡及び小學卒業生の、普通最も危險の多い年輩の小兒の爲に盡さるゝ事になりました。身體的に有爲の人物を養成せんが爲に出來た處の最初の二つの組織はワンデルフォーゲルブンドと少女のプアードフインデルブンドとであります。

ワンデルフォーケルブンドの方は旅行と鄕土研究につとめ、プアードフインテルブンドの方は主として野外に於ける遊戲に重きを於きまして、餘り骨の折れる行軍のやうな事はせずに、新鮮なる空氣中に於て運動をすると云ふ事に重きを置いて居ります。殊にこの會に於きましては、少女の園藝に於て大に敎育的の價値を認めて居ります。

フランクフルトアムマイン地方團に於きましては共同園藝組合に依て、頗る立派な成績を擧げて居りまするが、その共同園藝事業の模範とするに足るのみならず、少女等もこれが爲に、見事なる發育を遂げ、單に物質的の良果を收めたるのみならず、大なる喜びと生活の樂しみを得て居るのであります。この同盟には少しも黨派や分派の爭ひなどは御座いません、その組織は何時も僅に八人乃至十人の少女を一組にして、監督の下に置き、適當な敎導者の指揮

を受ける事になつて居りまして、その教導者が凡て此小兒等の爲に盡す事になつて居るのであります。そうして凡て歡樂と云ふ事が作業の動機となつて居りまして、各個教授の範圍は極めて徐々に漸次殖えてゆくのであります、例へば羅針盤と太陽に依る定向法、參謀地圖に依る旅行、災害に於ける救急法、及看護法の練習等の順序であります。この組織はその子女等を、優柔にのみ躾けざらんと欲する我が國民の母たる者の注目に價するのみならず、將來獨立してこの世を渡らんと欲する者の、武裝を整ふるに足るのであります。これが卽ちファードフインデル「道を見出す者」と云ふ言葉の意味でありませう。この名は旣に少女の道德的影響をも等閑に附せざる事を示して居ります。これは家庭に於ても忽がせにすべからざるのみならず、新しき世代の有爲なる母親を養成するためには、家庭に於てこそ實施しなければならぬ事であります。かくの如くにして得た處の力は眞正なる女性を害する如き變性を來す事なく、その神經を鋭利にし、肺臟を廣くし筋肉を强健ならしむるのであります。斯の如く體育と德育と相提携して行はれなければならぬのであります。

少女教育の一大改革をなすことは必要のことゝ思はれます。以前は第一位に置かねばならぬ所の感情の養生、少女身體の衞生と云ふことは頗る等閑に附せられて居つたのであります。併し適切なる身體の養生は、衞生學の原則に本づき、婦人の身體的竝びに道德的修養を主眼とするものでなければなりませぬ。已に小學校に於ける最後の年は、發育に向つては甚だ大切なる年でありまして、身體の發育力の增强は十二歲頃より始まるのであります。然ればこの時期に於て、適當なる身體鍛練の機會を與へて、十分發育し、伸長せしめなければ、心臟も肺臟も全體の骨骼も發達を遂げ兼ぬる譯になります。發育不十分の肺臟は、結核病第一の素因であります。小兒が驅けたり跳ねたりするので初めて肺臟も十分に働き、血液の循環も催進されるのでありますから、

吾々は總ての器官に働きをする機會を與へなければなりませぬ。眞に働をしない所の器官は、血液も十分に廻らず、血液が十分に廻らぬ所の器官は從て榮養も良くない譯であります。榮養の良くない結果は、抵抗力が弱くなります。それ故に自個の力を悦び、毅然として幸福を味ひ、自覺ある人と稱すべき健全にして抵抗力ある婦人及び少女を得んと欲せば、どうしても善良なる空氣中に於て自由に運動せしむることを心掛けなければなりませぬ。

野外に！　自然中に！　其處に喜を見出すべきである、喜はあらゆる力の源である。

上流の婦人に多き病

醫學士　中村芳助

病氣と申しますれば、俗に四百四病とか申します通り幾多の種類が御座いまして、今日の醫學上で類別致しますると、まだ〳〵多數の病名が擧げらるゝことになりまするが、その數ある病氣の中でも、特に老人に多い病氣もあれば、小兒のみに來る病氣もあり、又婦人でなければ罹り度くとも罹れぬ病氣もあり、男子でなければ侵されぬ病氣も御座いますし、又特に貧民に多い病氣もあり、或は特に上流の人々が侵され易い病氣もありまして、社會上に於ける地位、境遇、生活狀態より種々樣々の病氣に特に侵され易い、又侵され難いと云ふことがあるので御座います。今その極めて著しい例を申しますならば、麻疹、實布的里などは主として小兒のみを侵す病氣でありますが、癌腫とか腦溢血などは特に老人に多い病氣であります。又トラホームとか結核とか云ふものは貧民を苦しめ、神經病とか消化器病とか云ふものは、上流の人に多い、其他職業に依てそれ〳〵一定の職業病と稱するものが御座います、例へば活版職工の鉛中毒とか、石工の石肺とか云ふものがこれであります。斯樣に其の地位、境遇、年齡、一般の生活狀態に由て樣々の病氣が特に好で侵すもの

であります。今日は特に上流の方々を好きな病氣、その中でも貴婦人方を好く病氣に就て少しく御話を致して見やうと存じます。尤も私はこれに就て確たる統計を取つた譯では御座いませんから、餘り慥かなことは申上げられませんけれども、吾々が普通治療に從事して居りまする間に、どうも多いと感ずる病氣に就て申上げるので御座いますから、そのお積りでお腹立のないやうに願ひます。

神經病

神經病と申しますと、なかなか廣い、この中には普通腦、脊髓卽ち中樞神經系の方から來る病氣をも引括めて居りますから、頗る廣大なる範圍に亙りますが、こゝには單に末梢神經の病氣と、それから所謂官能的神經病と申しますもの丶中の一二に就て申上げるに止まります。

三叉神經痛　顔面痛とも申しまして、これは特に上流の人々に多いと云ふ譯でも御座いませんが、一體に多い所の神經病であります。これは如何なる症狀のものかと申しますと、顔の半側が非常に痛むものでありまして、最初はその部分の皮膚に異様の感覺のあることが多い、例へば蟻が匍ふやうな感じがするとか、熱いやうな感じがするとか云ふことでありまして、それから本統に痛が起つて參ります、その痛は、額からかけて眼の周圍に起ることが最も多いのでありますが、更に鼻の邊から脣、上の方の齒までも痛が起る、更に甚しくなれば下脣から下の方の齒、舌の尖も痛んで參ります、而して何時も顔の半分だけに痛があるのでありまして、其痛は隨分烈しいものであります、最初は顔は蒼くなり、痙攣を起し頻に瞬をするやうになりますが、後には顔は赤くなりまして、殆ど堪へられぬ程に痛むものであります。この病氣の原因として數へられて居りますものは澤山御座いますが、御婦人方に多い原因は、第一に貧血、歇斯的里、齲齒、それから不良の白粉に由る鉛の中毒等であらうと思はれます。この病氣に罹りました時には、勿論醫師の治療を受けること

になりませうが、右の原因を除くことが必要であります、豫め此等の原因を早く除いて斯様な苦しい病氣に罹らぬ御用心が更に肝要なことで御座います。

此他肋間神經痛、坐骨神經痛などゝ申す種々の神經痛が御座いまして、何れも痛みのある辛い病氣でありますが、御婦人方に於いては何時も貧血、腰の病氣、神經衰弱、歇斯的里、殊に感冒などが主な原因と認めらるゝのであります。特に多いのは神經性頭痛と稱するものでありまして、これは眞正の原因に就ては種々の議論が御座いまして、未だ餘り確實なことは分かつて居りませぬが、兎に角頭痛が致しまして、頭の前の方が痛むこともあり、後の方が痛むことがあり、或は何處ともなしに頭全體に物を被せられたやうに鈍く痛むこともあり、錐で刺されるやうに痛むこともあり、種々様々に現はれまして、その頭痛の起る時には神經が全體に過敏になり或は氣が鬱ぎ、仕事も厭になり、何を考ふることも物を食べることも厭になると云ふ風であります。所謂頭痛持ちと稱して御婦人方には頗る多く見受ける所の病氣でありまして、その眞正の原因は前にも申しました通りよく分かりません、けれども血行器及び消化器に故障があれば起り易いと云ふことは事實でありますから、これが豫防にも療法にも飲食物の攝生と、運動とは必要の事であります。

○鉛毒麻痺　これは印刷職工、畫工等の鉛を常に使用するものが罹る所の中毒性麻痺でありまして、最初歯齦が鉛色になり、貧血を呈し、屢々腹痛などがあつて、後には手から肩、顔、喉頭の筋肉なども麻痺して、甚しくなれば窒息して死ぬるものでありますが、これは鉛を含むで居る所の顔料を常に用ゆる俳優なども罹るものでありますから、御婦人方にも間々ある所の病氣で御坐います。これは鉛の含むで居るお白粉を用ひなければ宜しい譯であります。

○歇斯的里　これは神經病の中でも官能性の神經病と云ふものに屬して居る病氣でありまして、神經の何處の部分に變化があると云ふ譯ではなく、病人の考

へに依て何處にでも病氣が在るやうに思はれる、又種々樣々の症狀を發しまして、一々申上げることは出來ませぬが、何でもない事を非常に苦勞し、興奮し易くなることもあり、或は反對に無頓著になる等種々の精神變常を來し、又麻痺、痙攣を起し、その他樣々の神經性症狀を發しまして五官の機能にも障碍が起り、時としては癲癇のやうな有樣を呈することも御坐います。兎に角餘程奇妙な病氣でありまして、なか〳〵治り難いものであります。尤も生命に直接の危險は御座いませんけれども、本人には固より苦惱なるのみならず、その周圍の人々にも隨分迷惑なる病氣で御座います。西洋婦人には大變これが多いやうに思はれますが、我邦の御婦人方にも決して少なくはあるまいと思ひます。精神の甚しき興奮、失望、苦慮、特に不適當なる生活及び教育、生殖器の疾患などは直接間接に此病氣を惹起す原因になると申されて居ります。

要するに總て神經病は、不適當の生活法、過激の精神作用が主なる原因となつて起るのでありますから、元來が感情的の婦人、殊に其の神經も抵抗力に乏しい御婦人方が罹り易いと云ふことは明かなことでありますが、尙ほ婦人方の普通の生活法は餘り衞生的でないやうに思はれる、最も昔から見ますれば今日は餘程生活法が規則正しくなり、運動遊戲其他一般に身體の衞生に注意さるゝやうにはなつて參りましたが、未だ〳〵不十分で、衞生上の缺點は無數に御座います。其上に一面に於ては、御婦人方も精神を勞さるゝことが益す多くなり、從來は全く男子のみが苦勞をした事も、今や婦人までがこれに關係しなければならぬ、或は自ら好んで社會の渦に卷込まれて苦勞する方々に漸次多くなりますから、世の中が進むに從つて神經病及び精神病と云ふものは多くなつて參ります。故にこれに對する衞生法としては、もう一層婦人の生活法を衞生的に改良し、なるべく無益に精神を勞することを避け、堅質なる健全の思想を懷いて、社會の惡影響に超然たる覺悟が必

要であらうと思はれます。神經病に就きましては概略この位に止めまして、次には消化器病中、上流の御婦人方に多い病氣の事を申上げやうと存じます。

(以下次號)

貧血と補血藥 (承前)

ヘモグロビン製劑

今度は、これまでの如く鑛物としての鐵でなく、動物性食品中に含まれて居る所の鐵を出來るだけ澤山取込んで、血液中に減少して居る所のヘモグロビン即ち血色素を補はなうと云ふ工夫であります。これがヘモグロビン製劑でありますが、これは又胃の粘膜を刺戟して食慾を進め便祕を防ぐ效があると云ふのであります。而してヘモグロビン製劑を直接に血液に取込まうと云ふのでありまして、これには先づ一番簡單な方法は、血液或は赤色骨髓を食べることでありますが、これはどうも何時も新鮮なものを得ることが困難で、容易に腐りまするし、又その味も決して美いものでありませんから誰でも食べ得るものでは御座いません、且つその中には其他の如何なるものを含むで居るかも一寸解かりません。

ヘモグロビン製劑の中には液體のものも、粉末狀のものも又丸藥などにしたものも出來て居りまして、久しい以前から能く知られて居るのはヘマトーゲンで御座いませう。然るにヘモグロビンは黴菌を含み易く、又黴菌に取つては極めて適當な培養地でありますから、今度は殺菌性のヘモグロビンだとか、アルコールやエーテルを含むで居らぬものだとか、其他種々改良して味を好くしたものなども出來て參りました。

尚は眞赤な血そのまゝの色をして居る所の液性のものでありますと、患者に依ては往々むかづいて飲めとぬ云ふ所より、これを乾燥して粉にし或は錠劑などを作つたのであります。ヘモグロビン製劑は今日では種々の形のものが出來まして、チヨコレートと

かボン〳〵とか云ふやうな菓子の如くなつて居るものもあり、麺麭などに塗つて食べることの出來る摂物も出來て居りますし、其他砒素、規那、クレオソート、ヨード、大黄などゝ配伍して製したものも御座います。

有害作用及び服用法

補血劑には、多少有害作用とも云ふべき事が御座いますから、これを用うるには多少その事を考へなければなりません。それは何んなことかと申しますと、先づ鐵製劑を用ひますと、兎角歯が黒くなります。ヘモグロビン製劑には勿論斯う云ふことはない譯でありますが、其他の物に於ては、往々その原因と作用とが誤解されることがあります。卽ち貧血の人や腺病性の者は、元來幾ら歯を掃除しても變な黒味がかゝつた色の歯の人が尠なくないので、それを補血劑の罪にすることが間々御座います。硫酸鐵を含むで居る所の水藥は、實際斯樣な沈澱物を生ずることがありますから、これは何物も硝子管を用ひて可成歯に觸れぬやうにして飲めば宜いのであります。

それから胃の障碍及び便祕も藥の爲に起ると云はれますが、これも一部は原病そのものに歸すべきもので、必ずしも藥劑の爲では御座いません。其他の事は各人の相違に由て種々の事がある譯でありまして、或人はそれを食べて少しも何ともないのに或人は爲に烈しき胃の症狀を起すと云ふやうな場合もあるのであります。兎に角鐵劑は、何時でも食事の際に用ゆるやうにするのが宜しいのであります、さうすれば直接に胃粘膜を害する氣遣はありませぬ。便祕を來す虞れがあれば、黑黑麺、麥飯、梅のジャミ、コンポート等を以て適當の食餌攝生を行へば防ぎ得ることであります、併し貧血療法を行ふ間は、酸い食物はどうも宜しくないやうであります。今日では、それは差支ないと云ふ人が多いやうでありますけれども、經驗上特に無機性の製劑に於ては往々宜しくないことがあります。多數の鐵劑に於ては規那丁幾を混じて居る場合が屢〻ありますので、身體の中で

インキが出來て大便が黑くなります。一體鐵劑を用ひて大便が暗黑色になりますのは、彼は硫酸鐵の爲であります。それで食事の際に鐵を用うる場合には、最少なくとも酸を用ひぬ方が宜しいのであります。最も少し後には差支はないのであります。鐵劑療法も無害だからと云ふて、餘り長く用うべきものではありません。特に藥代を無益に拂ふまいと思ふ人は、四週間毎に檢査をする、卽ち醫師に就て血球及び血色素の量を檢査してもらふのであります、而して四週間後に少しも效能がなければ、他の製劑を試みることにしなければなりません。

さて隨分長々と諸種の製劑に就て餘り興味もないお話を致しましたから、大概に切上げなければなりませんが、それでは要するに何の製劑が最良で最有效かと問はれることになりますと、これは一寸御答が出來ないのであります。何れも一得一失があり、貧血の種類、個人個人の差異もありますから、これは先づ實地の御醫者に就て御相談になるのが宜しい、さうすれば何れの御醫者も種々の製劑を試みて居り、その應用法に就ても種々の經驗を有つて居りますから、此の場合、この人には、此の製劑を斯う云ふ風に用ひれば最も有效であると云ふことを敎へても吳れませうし、處方しても吳れませう。私は只鐵血劑と云ふものは斯樣な性質のものであると云ふことを御話したのに過ぎません。併し强度の貧血には、最初からヘモグロビン製劑を用ひても餘り效能がない、それよりも眞正の鐵劑或は鐵砒石製劑の方が宜しいと云ふこと丶、小兒には往々下痢を起さすることがあるから、自個流に鐵劑などを與へては宜しくないと云ふこと丶、それから舶來の製劑の廣告を見て直に信用してはならぬと云ふことだけは一言致して置きます。

要するに次の數個條だけを心に止めて頂けば、此のお話の目的は達せられたのであります。

一、少々身體に疲勞を覺えて、何となく太儀だからと云ふて、それが貧血と云ふものではあり

ませぬ。

二、醫師が貧血と診斷したときには、補血劑を用うるだけでは足りませぬ。それよりも適當なる生活法を考へなければなりません、夜は早く牀に就き、朝早く散歩し、榮養に注意することが最も肝要であります。

三、醫師に就て最も適當なる製劑の處方を乞ひ、その藥劑の效驗を絶えず檢査しなければなりませぬ。

四、小兒なれば、その學校に於ける擧動に注意することが必要であります。即ち授業を厭ひ、朋輩仲惡しく、休憩時間にも遊ばず、不思議な話などばかりに耽つては居らぬかと云ふことに氣をつけて見なければなりませぬ。

固來英國邊でも、『早寢早起は、人を健康にし、富裕にし、賢明にする』と申す諺がありますが、これは實際の金言でありまして、更に新鮮の空氣に於て輕易の遊戯を致しますならば、これは眞に補血藥の效能を助ける所の最良の攝生法で御座います。

育兒

育兒法を學ぶの要

『乞食の子も三年經てば三歳になる』。これは一面の眞理である。併し吾々人間の子は至て薄弱なるものであつて、適當の保護養育を受くるにあらざれば、成長することは甚困難である。何れの國の統計に就て見るも、多少の差はあれども、千人につき二十人内外の死亡を示して居る。これは決して正當の事でない、人間の子は斯の如く多數に死せざるべからざる運命のものではない、人間は斯の如く無益に妊娠分娩をすべき筈のものでない、併し此の如き說をなすものがある。曰く、これは所謂自然の陶汰であつて、薄弱低格の人間を除去して、健全有爲の人間を

生存せしむる自然の按排である。斯くて種族の完成を致すものである。故に人の力を以て薄弱なるものを生存せしめむとするは、自然の法則に反することにて自ら禍を求むるものであると、斯く云ふものがある。これは如何にも尤なる理窟の如く思はれる、併し事實上この說は間違つて居る、若しこの說が正しいとするならば、第一年目の死亡數の多い處にては、次の年には必然死亡數が少なくなければならぬ道理である、何となれば、虛弱なるものは前年に於て既に取除かれて居るから、後は健全なるものだけが殘つて居る理であるからである。然るに硏究調査の成績は、これと全く反對になつて居る、即ち哺乳兒が多く死亡すれば、その次の年も矢張多數の犧牲者を出して居る、加之ならず、斯樣な處では徵兵檢査の時にも不合格者の多いことを示して居る。これに由て、第一年目に於て多數の小兒を奪ひ去る所の有害作用は、其他の年齡に於ても健康を害するものであることが解かる。これ即ち小兒死亡數の多いのは、健康者のみを生存せしむる自然陶汰の良法であると主張せしむることを許さぬ反證である。況んや犧牲となる所の多數のものは、生活するに堪ゆる體力を以て生れ、その大部分は避くれば避け得べき障碍に由て斃れることを知るに於ては、これ自然陶汰と云はんよりは、寧ろ人間の手に依て行はるゝ所の人工陶汰と稱すべきものである。故に生れ來る所の小兒を全く失はぬことは難しとするも、今日の如く多數の小兒を死亡せしめて、當然死すべきものゝ如く平氣で居るは甚しき誤りと謂はなければならぬ。既に今日の醫學上の知識を育兒上に應用して、總ての階級に普及することを得たならば、小兒の死亡數は半以上を減じ得るに相違ない。これ即ち育兒法を學び、又育兒法を敎へなければならぬ所以である。右は全世界の人類、何處の國に於ても見る所の狀態であるが、然し今や歐米の文明諸國に於ては、既にこの點に注目し、熱心に育兒法の講究に努め、一方に於ては政府も社會も、諸種の團體も殆ど全力を擧

げて哺乳兒の保護、兒童の保護養育に努め、種々の企劃を立て、又實行しつゝあるのである。翻つて我國の育兒狀態を觀察する時は、殆ど何等の施設も無いのである、全く野放しの狀況である。幸にも我國に於ける分娩數は、歐洲各國に比して劣つて居らぬけれども、死產數が甚しく多い、每年十四五萬もあるのである。これにも種々の原因があらうが、要するに一般に衞生思想に乏しいのと、產婆、初生兒の取扱、總て西洋に一步劣つて居ることゝ、一般人民の無頓著と、尙ほ經濟其他の不都合が影響して斯樣な情ない哀むべき狀態に在ることゝ思はれる。此の如く元來死產、無駄產の多い所に、合理的の育兒法が普及されて居らず、否、必要なことさへも感じられて居らず、爲に漸く生き殘つた小兒さへも滿足に育たぬと云ふ有樣である。目下の所にては歐洲の人口は漸次その繁殖率を減じ、我邦にては未だ左樣な不祥の現象が見えぬやうであるけれども、歐洲にては今や既に自覺し、醒覺し、全力を盡してこれが改革を企て始めたから、必ず頽勢を挽回して、人口は再び增加し、小兒も益す健全に成長するやうになるのであらうと思はれる、それに反して我邦の娩產、育兒の狀態が長く斯の如き有樣に止まるならば、遂には人口の上に於ても、國民全般の健康の上に於ても、益々歐洲諸國に劣り、何としても及びのつかぬことに成りはしまひかと憂ひらるゝのである。實に產兒、育兒は直接に國力の消長に關係する、國家の爲にこれよりも大切なる事はない、而かもこれは主として婦人の大任に屬する事である。從來の如く、子供は獨手に育つ筈のものである、とか、兒を育てる事を學んでから嫁入するものはない、などゝ云ふ呑氣極まつた理窟を楯にすることを止め、眞面目に日本國の爲に、大和民族の爲に育兒法を講究すべきである。宜しく育兒法を學んで而して後嫁すべきである。

異常兒童

異常兒童とは、主として精神の缺典ある小供を申すのでありまして、通常精神低格、精神薄弱の二つに大別致します。精神低格と申しますのは、主として感情と意志の働きに故障がある、所謂性格の異常を特徴とするもの、精神薄弱と云ふのは、主として智力の障碍が現はれるものを指して云ふのであります。俗に所謂「足りない子供」「馬鹿な子供」は、なか〳〵少なくない、更に精神病學者が詳しい檢査を致しますと、その輕度のものは驚く程多數であります。

誰しも自分の家の子供は、一番利口で、一番美しい、一番可愛いのは尤でありますけれども、漸次成長するに從つて、段々他の兒童よりも成績が惡くなり、不良少年、不良少女となり、はては犯罪人となるやうな悲しい目に逢ふ親達も間々御座います。而して彼の子は立派な性質の子供であつたけれども、友人が惡い爲に彼の樣な事になつたのであると謂ふのが常であります。固より左樣の關係もあり、種々複雜の影響もあるには相違ありませんけれども、恐らくその身體精神に固有の弱點があつて惡友に誘はれ、惡感化を受けたものが多數であらうと思ひます。即ち親の愛著心に依つて、早く其子の弱點、缺點、即ち一概に云へば身體上並びに精神上の病的狀態に氣がつかずに居つたと云ふことが非常に多からうと思はれます。

此等異常兒童の精神的方面に現はれて來る所の症候は、甚だ複雜で御座いまして、簡單に申上げることは困難でもあり、且つ專門家的の檢査を施さなければ判斷し得ぬことも多いのでありますから、今日はそれは略しまして、只此等の兒童の身體に現はれて居る症狀に就て、御參考の爲に少しくお話致します。但し身體に一つ斯樣な事があるから、この子は馬鹿である、或は斯樣な點があるから低能であると申すのでは御座いません、低格者、薄弱者には斯樣

なものが多い、或は左様の具體的症狀あるものに低格者、薄弱者を多く發見すると云ふて御座いますから、御間違のないやうに願ひます

異常兒童には、一體に發育の不良なるものが多い、故に言語、歩行其他の擧動の發達が、普通の子供よりも悪い時には注意しなければなりません。

睡眠の不十分なるもの、夜中に驚悸るものが多い。

頭、耳、齒及び眼に異常のあるものが多い。例へば木槌頭とか巾著頭とか著しく形の變つたもの、出齒、亂杭齒、八重齒と云ふ如きもの、眼では斜視、耳では犬耳と云ふやうに、普通より格好の變つたものが多い。

又頭痛、眩暈、痙攣、震顫、痲痺、其他一般に五官の異常を認むることが多いのであります。

精神薄弱兒童に就て身體檢査を行つた二三の成績を掲げて見ますれば、

カッセル氏が百二十九人の兒童に就ての檢査

烈しき頭痛	五四
鼻呼吸の悪きもの	五一
言語の十分ならぬもの	四三
身體の畸形	三八
夜尿	二七
齲齒多きもの	二一
重聽	二〇
齒列異常のもの	一四
近視眼	一一
癲癇	八

此他身體の異常として貧血、心臟瓣膜病、氣管及び肺の加答兒等もありき。

ラケール氏が補助學校生徒六十七人に就ての檢査

言語障碍	一六
腺樣増殖	一二
重聽	八
ラヒチス	八
脊柱彎曲	六
近視	六
斜視	四
著明の腺病及結核	二
心臟の異常	二
鼻咽頭の癒着	一

カリシエル氏が二百五十五人の精神薄弱兒童に就

ての検査

腺腫脹	一九一
中耳炎	八〇
扁桃腺腫脹	六四
腺病性眼疾	一九
頭痛、偏頭痛	一七
眼の屈折機異常	一五
神經性重聽	一五
弱視	一五
言語障碍	一四
斜視	一一
クルツプ	九
心臟異常	八
舞踏病樣痙攣	六
脊柱彎曲	三
上眼瞼下垂	三
内眼疾患	三
癲癇	二
麻痺	二

其の他には肺加答兒、腺病質、遺傳黴毒、外傷後急性昏迷症等のもの少數ありき

右の表を御覧になれば、兎に角精神低格或は薄弱と云ふやうな兒童には身體の病氣が大變多いものであると云ふことがお解りになります。又如何なる種類の病氣が最も多いかも略ぼお解りになります　次には斯樣な兒童の生ずる原因と認められて居るものを一覽する爲に、ピーベルと云ふ人の白痴原因表を掲げて御參考に供します

甲　生來性白痴	男	女	合計	百分比例
			二一五	
(一)兩親又は近親の精神病	二九	一四	四三	二〇%
(二)兩親の結核	二四	九	三三	一五%
(三)父の大酒	一五	一二	二七	一五%
(四)不明	一三	七	二〇	九%
(五)祖父母の結核	一〇	八	一八	八%
(六)黴毒	九	六	一五	七%
(七)兩親其他に痙攣ありしもの	六	四	一〇	四%
(八)妊娠中母の苦惱	七	三	一〇	四%
(九)兩親祖父母の智力足らざるもの	九	一	一〇	四%
(一〇)血族結婚	六	三	九	四%
(一一)早產	四	二	六	三%
(一二)妊娠中母の墜落	三	三	六	三%
(一三)妊娠中母の恐怖	二	一	三	一%
(一四)妊娠中母の疾病	二	一	三	一%
(一五)母の子宮病	二		二	一%
(一六)父母の聾啞	一	｜	一	一%

乙　後天性白痴

	男	女	合計	百分比例
			七五	
(一)猩紅熱、實布的里	一六	六	二二	二九%
(二)外傷(轉落)	一一	四	一五	二〇%
(三)ラヒチス	六	四	一〇	一三%
(四)痲疹	三	六	九	一三%
(五)腦質炎	五	一	六	八%
(六)難產	五	一	六	八%
(七)濕氣ある住宅	一	—	一	一%
(八)鉗子產	一	—	一	一%
(九)野水腫	一	—	一	一%
(一〇)神經性熱	一	—	一	一%
(一一)頭部外傷	一	—	一	一%
(一二)日射病	一	—	一	一%
(一三)不明	一	—	一	一%

右の表に就て御覧になれば、異常兒童は如何なる親より生れることが多いかと云ふことが解かります、從つて結婚の上に於て注意すべき事も、妊婦の注意すべき事もお解りになる筈であります。右の原因及び異常兒童の身體的症狀をお考へになれば、自分の子供に就いての觀察も直接間接に餘程行屆くことゝ存じます。斯くて始めて子を視ること親に加かずとも云ひ得るだらうと存じます。

童子訓

貝原益軒先生の育兒說は、當時の醫學及び先生自家の經驗と識見に依れるものにて、今日の醫學上より評すれば固より訂正を要することながら、尚ほ富貴の家の育兒法に向つては頗る參考の價なくんばあらず。

凡そ小兒を育つるには初生より愛を過すべからず、愛過ぐれば、却て子を損ふ。衣服を厚くし、乳食に飽かしめれば必ず病多し、衣を薄くし、食を少くすれば病少し。富貴の家の子は病多くして身弱く、貧賤の家の子は病少くして身強きを以て其故をしるべし。小兒の幼生には、父母の古き衣を改めぬひて著せしむべし、絹の新しくして温かなるは熱を生じ病となる。古語に曰く、凡そ小兒を安からしむるには三分の飢と寒とを帶ぶべしと。これ古人小兒を保つの良法なり、世人これを知らず、小兒に乳食を多く

與へて飽しめ、甘きもの菓物を多く食はしむる故に、氣塞がりて必ず脾、胃を破り病を生ず、小兒の不慮に死するものは多くはこれに依れり、又衣を厚くして温め過せば熱を生じ、驗氣を漏す故、筋骨ゆるまりて身弱し、皆これ病を生ずるの本なり。唐も大和も古より、童の衣の脇を明くるは、童子は氣盛んにして熱多き故熱を漏さんが爲なり、これを以て小兒は温め過すは惡しきことゝ知るべし　天氣よき時はをり〳〵外に出し、風日に當らしむべし、斯の如くすれば、はだへ堅く、血氣強くなりて風寒に感ぜず、風日に當らざれば、膚へもろくして風寒に感じ易く煩ひ多し。小兒の養の法をかしづき育つるものに能く云ひ聞かせ敎へて心得さすべし

哺乳兒の鼻詰り

哺乳兒の鼻の通りが惡くなつて苦しむことは隨分多い。甚しくなれば窒息狀態を呈して假死に陷ることもあります。これはつまり哺乳兒は、その鼻の孔も、咽頭の方の後鼻腔も至て狹いのに、何時も舌の尖を上顎に著けて、鼻だけで呼吸をして居りますから、何かの原因に依て鼻の粘膜が腫れ或は分泌物の爲に塞がるとか狹くなるとかしますれば、忽ち呼吸が困難になり、從つて哺乳にも苦しむやうになり、殊に夜間睡眠中に、うつかりすると窒息することがあります。それで小さな哺乳兒、就中月足らずの兒などに於ては決して馬鹿にならぬ事であります。

この原因は普通の鼻加答兒、即ち加答兒性鼻炎が最も多いのでありまして、これは寒い風を呼吸せしめ、塵埃の多い室内に置き、又刺戟性の蒸氣を吸入せしめる等の事に由て起り、痲疹、流行性感冒、實扶的里等の爲に起ることがあり、又周圍の人々より傳染して起ることもありますが、一體滲出液質の小兒と云ふて、皮膚色の良くない、所謂しまりの良くない、頭に瘡が出來たり、眼の周圍が爛れたりする質の小兒が罹ることが多いのでありまして、特に黴毒が原

因となつて鼻加答兒の起ることが屢々あります。これは、なか〳〵頑固な鼻加答兒であります。兎に角**小兒が鼻加答兒に罹つて、久しく治らずに居ります**と、上唇が爛れて赤くなり、頸や頬の邊にぐり〳〵が出來たり、咽喉も惡くなり、延いては氣管枝加答兒肺炎などさへも起して來ることがあります。尙ほ鼻より上の方に至つて、頭痛を起したり、眼を惡くしたり、耳を惡くしたり致しますから、放置して措いては宜しくありません。

小兒が鼻を詰らして呼吸を妨げられるやうな場合には分泌物が乾燥して固まつて居れば、注意してピンセントを以て摘み出し、油類或は硼酸ワゼリンの如き刺戟のない軟膏を鳥の羽で以て鼻の孔に塗つてやります。而して尙ほ乾燥を防ぐ爲に、室內に湯氣を起て置きます。それでも乾く氣味があれば、一日數回食鹽水或は重曹水などを吸入致させます。尤もこれは成人が吸入を行ふやうに口から自ら吸入する譯には參りません、又その必要もありません、只口や鼻の邊に蒸氣が行くやうにすればそれで宜しいのであります。又微溫の食鹽水を綿に浸して、注意して鼻の內を洗つてやつても宜しい、**斯樣にしても治らず、且つ烈しい時には、**他の藥物を鼻に點入したり、場合に依ては飮藥も必要でありますけれども、これは醫師の診察治療を受け或はその處方に依つて治療をしなければならぬ事であります。

家庭衞生

野菜の消化に就て

植物も、動物と同じく細胞から成立て居る、而してその細胞の壁はペクチン質より出來て居るので、消化し難い。このペクチンと云ふものは、酸とアルカリーが交互に作用すれば溶解るのである。植物性の食物は總て、これが溶解た所で初めて眞に消化され吸收されるのである。故に胃の弱きものは、植物性

の食物を用うるには、特に注意してこれを粉砕し、十分咀嚼し、尚ほ胃液の分泌不足の傾あるときには、少量の稀鹽酸を食物と共に服用すれば宜しい譯である。

消化器外の準備的消化とも云ふべき調理の一法として、植物性食品を煮熟すれば、矢張細胞間質を多少溶して幾分か消化した形になす、併しそれは甚だ不十分なものであつて、所謂粗化する效があるに過ぎない、且つラグナール及びベルグなど云ふ人々の說に依れば、野菜を煮熟すれば榮養價の上に於て次の如き不利を來すと云ふことである。

卽ち煮熟さるゝときには、野菜は、各種鑛物質の三分の一乃至四分の三を失ひ、カリー及びナトロンはその十分の九を失ひ、有機性の食素も多く灰化せられる。湯煮る場合に於て乾燐物質の失はるゝ量を各野菜に就て檢して見るに、例へば菠薐菜では約五分の一、紅甘藍では四の一、綠甘藍では三分の一、白甘藍では二分の一であると云ふことである。然れば又糖及び澱粉の消失することは勿論で、その大部分は失はれる、蛋白質も二の一に至るまで消失する。故に榮養の目的を以て野菜を食用に供せんとするには、先づ蒸して食するか或は可成少量の水を以て煮て、食するときに汁の出ぬ位にしなければならぬ。

滿腹の感

滿腹の感は、食物の硬さに關係する。通常の人は流動性の食物八百立方センチメートルを取れば、平等に滿腹した感じが起るが、粥食なれば二百五十立方センチメートルで滿腹の感が起る。滿腹の感は食物の攝取法に依て遲速がある、十分咀嚼して食すれば比較的早く滿腹の感が起るけれども、若し消息子を用ひて胃に輸入する場合には、千五百立方センチメートルに至て漸く滿腹の感が起る。右の如き事は胃內の壓力に關係あることは疑のないことである。故に腹部を緊約ことは有害である。何

ともなれば、幅廣き女帶の如きものを以て胃部を壓迫して居るときには、食事に際して早く胃内の壓力が高まり、忽ち滿腹の感が起るからである 從つて日に三度斯の如くして食事すれば遂に榮養不足し羸瘦に陷るの虞がある。我邦婦人の帶を改良したならば、案外これだけにて榮養不良や瘦ぎすの全治する人が澤山あるかも知れぬ。

尚ほ此點から考へて、無暗に食物を貪る子供には、腹帶になつて食べさすれば、暴食を防ぐことが出來やうと思はれる。

榮養品としての魚肉

大きな魚を切賣にて買ふのが利益である。大きな魚類の肉は概して榮養價に富むで居る。小さな魚類は食料に供する部分よりも棄てる部分の方が多い。

種々の魚肉一キログラム中に含むで居る熱量即ちカロリは次に示すが如くである。

種類	カロリー
青魚	九六五
海鰻	七一〇
海鮒	五六四
[illegible]	四六三
鮭	四三五
河鮏	一五六八
河鰻	一二五九
鮒	四六七
鯉	一六三

脂肪の少ない魚の方が、脂肪の多いものよりも概して消化が良い、併し魚の種類に依て必ずしもさうのみは云へぬ、非常に脂肪に富むで居る魚でも、これを燒けば案外消化し易いものとなる。

魚肉より製した蛋白製劑にリパと稱するものが出來て居る、最初賣出したものは、不快な臭味があつたけれども、近頃の製品は臭味がないから食用に供して便である、近來又マルツと配伍したものがある。各種の飮料、野菜又はプッチング等に混ぜて用うるに宜しいと云ふことである。リパチヨコレートと云ふものも出來て居る。

肝油を飲む法

種々の場合に肝油を服用して非常に良效を奏することのあるは何人も知つて居る所である、然るにこの肝油は甚しく飲みにくいものである、臭味共に宜しくないのが缺典で、如何にしても飲めぬと云ふ人がある。依てこれを可成飲み易く、飲よくする方法の一二を紹介する。

牽牛花形のコップに麥酒をつぎ、その上に肝油を浮かして、口の周圍に觸れぬやうに、グッと飲めば最も飲み易い。

冷茶に浮して飲むのも宜い方法である

肝油を飲むだ後で、鹽煎餅を咀嚼すれば、惡い味を消すに妙である。

ビスケットを食べても、善く口に著いた油の味が取れる

更に一つ名法がある　それは肝油を飲む前と飲むだ後で、鐵水を以て含嗽することである。この鐵水を製する方法は、水を入れた罎の中に鐵釘を入れて二三日放置して置けば宜しい而して肝油を飲む前に、この水を以て口を嗽ぎ、又飲むだ後にもこの水を以て能く含嗽するのである、さうすれば肝油の味も臭も殆ど苦にならぬものである

睡眠時の身體の位置

睡眠には右側を下にして臥せるのが一番宜しい、仰臥して眠ることも出來れば、左側臥の位置にて眠ることも出來るけれども、右側臥は最も安穩に睡眠することが出來て、餘り苦しい夢などを見ることが少ない、而して一番身體の疲勞が恢復する　これは確かに事實である、然しこれは如何なる理由に依るかと云ふことに就ては種々の議論がある、或人は斯う說明した、これは一般の人は右手利であると云ふことに關係して居る、と云ふのは、一體神經の通路は、延髓の所に於て左右交叉して、右側の身體の神經は

左の腦の方に行つて居る、所で普通の人は右手利であるから、總て身體の右側に屬して居る方の五官及び手足が餘計に使はれ筋肉も發達し、それに應じてこれを支配する所の左の腦が、右の腦よりも餘分に働き目方も多い譯である。然るに睡眠には腦の血液が少なくなること、卽ち適度の貧血と云ふことが缺くべからざる睡眠の要件である、さうすると他の壓迫などを受けずに自由になつて居る方の頭が能く血が空になり易い譯である。そこで大きい方の腦の半分、卽ち左の方の腦半球が上になつて居れば最もよく睡眠が出來ると云ふ道理になる、卽ち斯の如き器械的の原因に依て、晝間の仕事に要した所の血液が、容易に腦髓から身體の方へ戻ることが出來る、これが左側臥の最も安穩に睡眠し得る所以であると說明するのである。

又或ものは、左側臥或は仰臥位にては、心臟の運動する場所、卽ち心臟の空間的關係が惡影響を蒙むるからして、何となしに苦痛を覺え、從つて苦しい夢などを見るやうになるから睡眠に不便である、この關係からして左側臥は心臟の爲に最も都合の好い樂な位置で、從つて最も能く安眠が出來るのであると云ふて居る。又或人は、左側臥にては腹部臟器の位置が變じて橫隔膜が上の方に押上げられるから苦しいとか或は仰臥位では腹部臟器が交感神經に壓迫を加へるやうになるから睡眠が不穩であるとか云ふ所から、右側臥の最の安眠を得る所以を說明して居る。斯樣に種々最もらしい說があるが、果して左の腦の血液が空になり易いと云ふことだけで十分の說明であるかどうか分からない、物を澤山食べた後では右を下にして寢ても矢張惡夢に襲はれ易い、餘り善く安眠を得ない、然るに胃に食物が在つて右側臥をする時には、正に左の腦の貧血を來すには極めて好都合な譯である、然るに眠りを妨げられる所を以て見ると、單に左腦半球の貧血を來すに便宜な位置であるからと云ふ器械的作用の說明だけでは少々覺束ないが、兎に角右側臥の最も善いことは事實である。

其他の説もそれだけでは十分の説明とは思はれぬけれども、何れも右側臥位の睡眠に適せる位置であると云ふことは認めて居るのである。特に心臓病のある人は、右側を下にして寢るやうに習慣をつけなければならぬ。尙ほ安眠には、腦のみならず、多少胃も空き加減になつて居ることが必要である、但し餘り空き過ぎて空腹を感ずるやうでは、これ亦反つて就眠し惡いものである、胃が充滿して居らず、稍や空き加減になつて居ることが必要である。故に夕食と就眠との間は二時間半乃至三時間なければならぬ。若しそれが出來なければ、少なくとも夕食と就寢との間に半時間乃至一時間散歩するのが宜しい、さうすれば胃は早く空になり、しかも食べただけの食物は十分榮養となり、且つ安眠を得るから、身體の疲勞を恢復するには頗る宜しきを得た方法と云ふべきである。

月經時の衛生

月經時に適當の衛生を誤まり、或は非衛生的の事を敢てすれば、後に至てこれより婦人科的疾患を惹起すものである。

西洋の婦人は、何れの階級のものも月經間は休息する習慣であるさうであるが、これは誤つた習慣である、これが爲めに反つて婦人科的疾患を惹起すやうになるとは、さる西洋の婦人科醫の説であるが、實際左樣に思はれる

但し月經時に痛みがあるとか其他の症狀が伴ふ場合、卽ち月經の異常ある場合は休息することが必要である、唯彼樣な變のある時、或は異常のある人は別者であるが健康な婦人は、決して月經時にも特別に休息を要しない、休息しない方が宜しい。經驗上月經時にも適度に仕事をした方が、月經の經過も精神の狀態も良い。只極く若い處女に於ては、月經が規則正しくなるまでは安靜にせしめても宜しい、併

し月經困難或は激烈な月經ある場合には、少女は全く學校を休ませた方が宜しい、而して新鮮なる空氣中に生活せしむれば、多數の場合には、已にそれだけで以て月經は正常になるものである。

衂血を止める法

衂血が出る時に頭を仰けて脊中を敲くとか、紙で鼻の孔に栓をするとか云ふのは普通の方法で、輕度の場合には、これで勿論止まる。醫師が止める時には矢張脱脂綿或は長きガーゼに絲を著けて鼻腔の奥まで栓塞して仕舞ふ、或は一半クロール鐵液とかアドレナリンと云ふやうな止血藥を浸して詰める。何としても衂血を止めることは左程困難なことではないが、ガーゼも脱脂綿も藥もない時に、比較的多量の衂血があると一寸困難するものである、斯樣な時には何うすれば宜しいかと云ふに、強く胸廓を擴げるのが衂血止の妙法である。それには先づ上體を眞直にして兩方の手を頭の上に擧げて、口を開いて靜かに出來るだけ深い呼吸運動をするのである。斯うすれば頭と鼻の靜脈血が少なくなつて衂血は止まるのである。

もう一つの方法は、普通鼻や頭を冷すけれども、これとは反對に項部に熱性罨法を施すのである、例へば手拭を熱い湯に浸して少し絞つて襟首の所へ當てるのである、頗る良效を奏するものである。これは手近に止血藥などのない時には、簡單で善い方法である、頑固な場合には、湯で罨法を施すよりも小麥粉を熱湯で捏つて手拭に包むで當てれば一層效能が著しい。この方法は、鼻腔の局所の原因より起つた時よりも、動脈硬變などの爲に起つた衂血の場合には特に適當である。

序に一言して置くことは、衂血の原因は多數あるけれども、其中には慢性の腎臟炎も屢々これが原因になつて居るから、原因不明の衂血が度々あれば、必ず尿の檢査をして貰ふことを怠つてはならぬと云ふ

ここである。

市中販賣の毛染劑

東京衛生試驗所技師藥學博士石津利作氏は、近時白毛染或は赤毛染と稱して坊間に販賣せらるゝ毛染劑中には往々有害物質を含有し、その害毒を蒙るもの少なからざるを以て、市中賣販毛染劑中目下最も流行せるもの十六種に就き精細なる試驗を施し衛生上有害なる毛染劑のあることを發見せられたり、今その報告の結論を摘記すれば左の如し。

試驗成績によるときは、市場にて販賣せる毛染劑はこれを其成分より大別するときは、左の三種に分つことを得べし。

第一種　「パラフェニレンヂアミン」を主要成分となすもの。

第二種　甲液には銀、鉛等の可溶性鹽を、又乙液には硫化物を主要成分となすもの

第三種　水酸化石灰、煆性「ナトリウム」炭酸「ナトリウム」等の「アルカリ」及び鉛抱合物を主要成分となすもの。

これなり、而して第一種及び第二種は、需用者の各自に使用するものに係り、かの理髮店に於て即席白毛染と稱し、使用せるものは專ら第三種に屬す。

市場販賣毛染劑中、現今最も世上に流布せるものは、多くは第一種に屬し、「パラフェニレンヂアミン」を含有す。然るに「パラフェニレンヂアミン」なるものは有害性物にして、直接に皮膚に接觸するときは、素より又皮膚に接觸せざるも、毛髮に之を塗布するときは、自然の酸化に由りて生ずる揮發性物質「ヒノンヂイミン」の蒸氣の爲皮膚を侵襲し、濕疹、眼の炎衝、喘息性疾患、胃障碍、食慾減退、身體枯瘦等を誘起し、又頭部及顏面全部著しく腫脹し、頭痛を發し、甚しきに至りては毛髮の脫落を來たすことあり。

「パラフェニレンヂアミン」に對しては、人々各特異素因を現すものなれば、其害毒も亦從つて各人により異なる處あるは勿論なれども、假令この物質に

對し比較的不銳敏なる人と雖も、これを毛髮に連續使用するときは、漸次毛髮の實質を害し、一箇月乃至一箇月半を經過するに及んでは、黑色は消褪して赭石色に變じ、本來の毛髮よりも却て赤色を帶ぶるに至るべし。而して一たび此種の毛染劑を使用せるものは、染毛を中止するときは、毛髮赤色を呈し、且つ毛髮の新に生育せる部分は、白色若くは赤色なるを以て、其害毒を知りつゝ猶ほこれが連用を敢てせざるべからざるに至る。斯くして數回塗布を反復するときは、皮膚の銳敏なるものにありては、上述の如き中毒症狀を發す、又然らざるものにありても、毛髮の實質纖弱となり、其先端は漸次短縮消耗するは免れざる處なり。

人間生毛の染色に「パラフェニレンヂアミン」を使用するの害に關しては、學者間既に定論あり、殊に獨逸の如き先進國にありては、毒物表中にこれを加入し、醫師及び藥劑師にあらざれば、これが取扱を禁止せり。されば これが衛生上の害否に就き、更に再驗を施行するの要あるを認めず。當局者は須く速にこれが使用を禁じ、尙ほ廣く世人に其害毒の恐るべきを注意し、不知の間に危害を蒙らしめざらんことを務むべし。殊に毛染劑の如きはこれを使用する者の心情として、私かにこれを使用し、成るべく他人をしてこれを鑑知せしめざるに務むるは當然にして、從つて假令これが爲に害毒を蒙むることあるも、多くはこれを內密に附し、毛染劑の害を他言すること極めて稀なり。

かの醫師に治療を乞ふものに至りては、全中毒者中甚だ少數に過ぎずして、殊に災害の顯著なる者のみに限らるゝを以て、從來臨牀醫家にありても、毛染劑の害毒に關し深く注意するものなかりしが如し。

「パラフェニレンヂアミン」を含有せる毛染劑は、啻に其の使用法の單簡なるのみならず、染色確實にして、且つ堅牢なるが爲め需用者の嗜好に投じ、賣行最も盛んなるが如し。今日に於て速にこれが取締を設け、これが使用を嚴禁し、一面には衛生上有害な

る所以を廣く世人に警告するにあらずんば、此種の毛染劑は日を追ふて益々需用を廣め、從てこれが爲に災害を蒙るもの愈々多からんとす。

殊に「パラフェニレンチアミン」を用ひて染色したる毛髮は、眞黑色を有し且つ光澤あるを以て、本邦人に最も適當す、故に其の害毒の恐るべきを諄々敎示するにあらざれば、假令これが製造發賣を禁止するも尚ほこれが密賣を謀り、或は害毒を知りつゝ、なほ且つ私かにこれが使用を敢てするものあるや必然ならんと思考す。

第二種に屬する毛染劑は、甲乙二劑を要するの不便あるを以て、近來これを使用するもの少く、殆んど第一種毛染劑に壓倒せらるゝの觀あり、第二種毛染劑は銀、鉛等の有害金屬を含有するものなれば、衛生上稱揚すべきものにあらず。

第三種に屬する毛染劑は、「アルカリ」及び鉛抱合物より成り、時として少許の硫黃を含有することあり、毛染劑としてこれを應用するの原理は、毛髮に「アルカリ」を作用せしむるときは、毛髮を構成せる蛋白質なる「ゲラチン」は腐蝕せられ、蛋白質性硫黃は分解して單純なる硫化物となり、茲に初めて鉛と抱合して黑色の硫化鉛を生成するに因る。故に此種の毛染劑は、學理上毛質を損害すること既に明白にして、更にこれを實驗に徵するも、染色毛髮强弱試驗成績の示すが如く、實質を損傷すること甚し、殊に使用の際、誤つて皮膚に接觸せしむることあらんか忽ち「アルカリ」の爲め皮膚を腐蝕し危害を及ぼすべし。

要するに現今市中に販賣せる毛染劑中には、往々衛生上危害を生ずるの虞あるものあり、就中「アルカリ」及び鉛を主要成分となすもの、及び「パラフェニレンチアミン」を主要成分となすものゝ二種は、最も害毒の劇しきものなるを以て、速にこれが使用を防止するの要あるべし。

急性中毒の手當

種々の場合に種々の物に由て急劇に中毒を起し、生命の危險を來すことが往々ある。此の際に於ける急場の手當を心得て措くことは家庭衛生上極めて必要の事である。

毒物の種類及びその中毒の症狀次第にて、それ〲療法に差異はあるけれども、その細かい事は醫師の診斷の上でなければ分からぬから、何の中毒か分からぬが、兎に角急性の中毒で、危險に迫つたものと假定して、一方醫家に人を走らせると同時に、如何なる手當を試むべきかの要領である。

急性中毒の場合には、その症狀の一つとして大抵物を吐く、或は下すものである。これは自然の妙機であつて、毒物であるから身體の外に逐出す、卽ち胃に在つては良くないから吐出し、腸に在つて惡いから下し出すのである。故に中毒の際には吐かすことが必要である、既に毒物が腸の方に通過したならば下から早く排泄せしむることが必要である。毒物を吐かしめるには、醫者であれば胃を洗つて毒物を出して仕舞ふ或はアポモルフィンを注射するとか、硫酸銅、吐根などゝ云ふやうな吐劑を用うるけれども、普通の家庭に於て、急遽の際には如何とも仕方がない、其時には微温湯、食鹽水或は石鹸水などを大量に飲ましめ、指或は鳥の羽を以て咽喉を刺戟し、これと同時に胃の邊を壓つけて吐かしめるのである、牛乳或は油類を飲ましめて適當の場合もあるけれども、若し燐の中毒などの場合であれば牛乳或は油を與へれば燐を溶かして却て中毒を甚しくするから危險である。

次に下して仕舞ふには何うすれば宜いかと云ふに、先づ灌腸を施す、只の冷水でも石鹸水でも宜しい、單寧水なれば更に妙である。これは毒物が腸の下の方に來た場合であるが、尙ほ腸の上の方に在る時には下劑をかけて下さなければならぬ。その下劑は、毒物の種類に應じて擇ばなければならぬが、何處の

藥店にもある所の瀉利鹽で宜しい、これを水に溶かして澤山飲ますが宜しい、前にも述べた理由に依て燐中毒の時には蓖麻子油を與へてはならぬのである、甘汞と云ふ下劑も腸を損じた時に與ふることは出來ない。

これで以て吐かすことが出來、下すことが出來るが、あわてゝぐづ／＼して居る間に、毒物がどん／＼胃から吸收され、又腸の方へ送られると云ふ恐れがある、そこで先づ胃の中に這入つた毒物を無害にし或は出來るだけその毒を薄くすることが必要である。即ち酸にはアルカリー、アルカリーには酸を以てし、金屬中毒には蛋白、アルカロイドには單寧、燐には過マンガン酸カリーと云ふやうな解毒法であるが、各毒物に對して適當の解毒藥を與へることは、これ亦急卒の際に普通の家では六ケしい事であるから、兎に角右の原則を概略承知して居つて、臨機應變手取早く有合せの物を應用しなければならぬ、即ち酸と云へば普通の酢でも柚の酢でも何でも宜しい、アルカリーと云へば、石鹼水でも卵の殼を粉にしても、白堊でも壁土でも何でも宜しい、單寧でなくとも澁茶でも咖啡でも宜しい、蛋白としては卵の白味に越したものはない、牛乳も宜しい、その他消炭とか砂糖とか云ふ種類のものも毒物を吸收し多少解毒の效がある。斯樣な手近にある品物を應用して幾分か毒を消し或は毒力を弱めて置いて、それから吐かすべきである。

更に毒が血液の方に混ずれば、汗や尿を澤山出して、一緒に毒物を身體の外に出し、或は刺絡を施して毒血を少なくし、或は食鹽水を注入して毒を薄める法もあれど、それは醫師の手を借らねばならぬことである、それよりも先づ呼吸が止まり、心臟が止まつては萬事窮する譯であるから、所謂對症療法として茶、咖啡其他何でも酒類を與へ、或は樟腦を飲ませるとか云ふ風に興奮劑を以て心臟の働を保たせ、又一方に於ては冷水、溫湯を應用し或は芥子を貼り、手足を摩擦するとかして、呼吸を止めぬやうに、血

行の止まらぬように努めなければならぬ、人工呼吸法はこの場合屢く必要であるが、その方法は、別に述ぶることゝして、今日は略しく置く

雜報



○看護婦長講習會

日本赤十字社に於ては來る五月三日より十五日間を期し、各支部に於ける看護婦長を召集し、最近の介補學及び參考學科の大要を講習せしむる筈にて、受講者は約三十名なりと云ふ。

○産婆養成科指定

九州齒科大學産婆養成科は、産婆規則に依り、今回内務省の指定を得たり。

○米國大使の寄附

去月十五日出發歸國したる本邦駐剳米國特命全權大使アンダーソン氏は、其の出發に臨み、牧野外務大臣を通じて金一千圓を東京慈惠會醫院に寄附し、同院理事者に於て最善と認むる使途に充てんことを希望する旨附記せりと。

○東京市の細民

内務省に於て一昨年來東京市及び大阪市一部の細民に就き、所管警察署員及び特殊小學校教員に囑託して調査したる所に據れば、東京市内に於ける細民と云ふべきものは二十五萬人内外にして、是等細民部落の一職業たる人力車夫に就きて調査せるに、日清戰爭當時に於ける東京市内の車夫數は、四萬二千二百十八人なりしが、十年後の三十七年には二萬九千二十三人となりて約半數に減じ、其後電車開通せられ其他の交通機關の發達に伴ない四十三年には更に減じて二萬一千九百五十八人となり、其の居住地も漸次幾轉して二十七年當時に於ては淺草區に六千二百五十八人、深川區内に四千百八十九人なりしが、其後は淺草、下谷乃至深川、本所に多く住することゝなれ

り、其主なる原因は人力車の需用、神社佛閣所在地、入京者往復の要路交通機關の關係等に依り家賃低廉生活程度の低き事等に由ると云へり。

○虎列拉有病地指定の解除

去る八日の官報宮內省告示第四號を以て宮內傳染病豫防令の規定により、淸國上海地方の虎列拉有病地の指定を解除の旨發布されたり。

○博文館主の美擧

東京博文館主大橋新太郎氏は、過般肺結核の爲めに愛息を失ひ、且つ同病の益す猖獗を極むるを慨し、これが豫防撲滅の一端に資せんとの篤志を以て日本結核豫防協會へ金壹萬圓、白十字會に金一千圓をそれ〴〵寄附したりと。

○濟生會東京診療所の成績

同診療所にて去月一日より同十五日迄に診療したる患者數及び昨年八月開所以來同日に至る累計は左の如くなりと。

	外來	往診	救急處置	計
自三月一日至同十五日	六一四八九	一九九	一五	六七〇三
累計	六七〇四〇	二七三	一四八	六九九一〇

又同日迄に麴町診療所病室に收容したる新患者は一九名、これに去月の繰越患者二二名を加へて合計四一名を算し就中七名は全治退院したりと。

○衞生功勞者の奬勵

內務省にては施藥救療、看護婦養成或は傳染病豫防其他に關する衞生功勞者として左記に對し去月三十一日各金圓を授與してこれを表彰したり。

群馬縣多野郡藤岡町　群馬縣多野郡醫師會

平素克く其の力を衞生の事に效し地方改良の上に盡すこと少からす今後尙一層の勉勵を望む依て金二百圓を授與す

千葉縣東葛飾郡松戶町　醫師　山下　寅吉

平素克く其の力を衞生の事に效し地方改良の上に盡すこと少なからす今後尙一層の勉勵を望む依て金百圓を授與す

○看護法私費講習生募集

東京醫科大學附屬醫院にては今般看護法私費講習生三十五人を募集す、志願者は願書に自筆の履歷書並に戶籍謄本を添へ來る四月十九日迄に願出づべしと

講習年限は三個年にして入學試驗は同月二十一日午前九時より三井慈善病院に於て執行の筈なり、尚給費を希望する者には三井慈善病院より全部支給せらるべきを以て、希望者は直接同院へ問合せ詳知すべしとなり。

○鼠の價

東京市に於てペスト豫防の目的にて驅鼠を奬勵し、買鼠を實行したるが、昨年一月より十二月末迄の間に捕鼠百十六萬三千百九十一頭、斃鼠一萬九千三百三十九頭、計百十八萬二百二十一頭、其の買上代價二萬三千六百五十圓五十八錢なりしと。

○京都市學校醫會幹事會

京都市學校醫會幹事會を京都市役所に於て、開き直營校よりは遠藤、田不(秀)、瀬川、第一部よりは菅野、第二部よりは大村、市川、第四部よりは田中(泰)、第五部よりは中村、第六部よりは櫻井、西村の各幹事參會し。盤江、上田、武本の三市視學之に列し、左件を協議し、同十時散會せり。

(甲)諮問案に對する答申整理の件

一田中(秀)、田中(泰)、遠藤、瀬川の四幹事にて之を擔任するに決す。

(乙)「アスフアルト」に對する意見聽取の件

一京大理工科大學にて稲島講師試驗中に付結了次第開講するに決す。

(丙)大正二年の新計畫。

一小學校新入生の體格檢査を行ふ事（宿題）

一昨年中小學校教員男女一千餘名中病氣退職の者五十七名にて中に肺結核患者九名ありしが内七名は退職後間も無く死亡せり、事情眞に憫然なるも危險なれば教員の健康診斷を勵行し且任用の當初體格檢査を行ふ事。

一教員の肺結核檢査を勵行する前に情質に陥ひるの弊無からしむる爲先づ救濟的優遇方法の施設を促す事。

一教室體操場の窓を時々開放して換氣し尚溫度の調節を計る事。

一女學校生徒辨當の競爭的少量に失するの弊を矯正する事。

一中央三所在に遊園地を設くる事。

一學校性貧血病豫防に關する事。

○大日本學校衛生協會發會式

大日本學校衛生協會の發會式は、去月一日午後一時

より神田一ツ橋通り帝國教育會樓上に於て擧行せられたり、定刻振鈴と共に來賓及幹事、會員一同著席、先づ幹事岡田英之助氏登壇開會の辭を述べ、座長選擧は幹事に一任せられたるを以て醫學博士横手千代之助氏推薦せられて、議事に移り、規則は討議の末原案を是認し次で會長を選擧する事となり、是亦座長に一任するに決し、座長は會長に北里博士を、副會長に文部省普通學務局長田所美明氏及三島通良博士の兩氏を擧げ諸氏留任の挨拶あり、終つて文部大臣及内務大臣並に辻帝國教育會長等の祝辭あり、右終つて講演に移り第一席來賓乙竹岩造氏の『特殊教育問題』に就て約一時間に亙る有益の講演あり。終つて北里博士は『教育の肺結核問題』に就て詳述せられ、之れにて式を終り別室にて茶菓の饗應あり、散會せるは午後四時半なりき。

廣告

○本會入會者

○伊藤弘一氏紹介

●府下千駄谷町五三七　通常會員　春田隆子

●小石川區久堅町七〇　通常會員　西島富壽子

○莊司秋次郎氏紹介

●本所區南二葉町三五　通常會員　麻生せい子

○轉居

●岡山市西山下一六六河野兵次郎方へ　栗原きみ子

●麴町區飯田町四ノ二三へ　伊澤みね子

●小石川區宮下町四ノ八へ　井本秀子

●臺灣阿緱廳官舍へ　小山榮枝子

●濱松市伊場鐵道官舍へ　小林彌生子

●秋田縣小坂鑛山元山分院へ　河野りつ子

○訂正

●前號本會入會者中通常會員、近藤憲子、特別會員ノ誤ニ付訂正ス

○追加

新潟支會入會者

○中村しげ子紹介

特別會員　安藤きく子

同　飯尾輝子

通常會員　池田春子

○江口みつ子紹介

通常會員　渡邊英子

轉ばぬさきの杖

石橋臥波述 （製本出來）

民俗叢書 第一篇

個人 社會 厄年の話

中判美綴 全一册 定價三拾五錢 特價貳拾五錢 送料四錢

厄年は人間海の颶風怒濤なり、この信仰は、如何なる處より出でたるか、本會は前篇に於て、男女個人の厄年に就て、その起原、沿革を述べ、生理上、心理上より、幾多の統計材料等を參考として說明し、更に古今有名の人物男女數百名の實際に照して、境遇上より判斷を下し、特に婦人に關しては、疾病、死亡、結婚、出産、月經の初潮、閉止期、自殺、情死等の各方面の材料を蒐めて精細なる說明を與へ、後篇には、社會の厄年——政變、火災、地震等の災異に就き、和漢洋の古來の事實に徵して詳述し、且つ、各地に行はるゝ厄拂の風習をも附記し、全篇口話體にして假名を振り、誰にでも讀める面白くて有益なる書物である。何人も一本を供へて轉ばぬ先の杖とせよ。

主要目次

◎前篇（個人の厄年）▲厄年の起原▲厄年の沿革▲厄年の意義▲生理上よりの觀察▲發情期▲月經▲死亡年齡▲心理上よりの觀察▲自殺者年齡▲實際的方面の觀察（男子の方面、女子の方面、文武官、貴族、志士、學者、宗敎家）▲概括▲餘說▲九星、十二運、本命的殺▲厄拂ひの風習

◎後篇（社會の厄年）▲日本古來の實例▲支那西洋の實例▲結論

發行所 小石川區原町二十三番地 振替東京壹貳四五〇番 人文社

賣捌所 東京 東京堂 北隆館 大阪 盛文館

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山木多穗子
同 松平芳子
評議員 石川貞子
同 濱田捨子
同 服部繁子
同 四外子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部叚子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子
同 羽田三緒子
同 高木鉄子
同 三浦教子
同 岩下ゆか子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 吉武輝枝子
同 高橋孝子
同 鶴原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 菊池米子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊	定價金貳拾錢	郵稅壹錢
三冊（三ヶ月分）	前金郵稅共	金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分）	前金郵稅共	金壹圓八拾錢

廣告料

一頁 六十二行　一行二十三字
壹頁 金五圓　半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正二年四月十七日印刷
大正二年四月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區根津西須賀町九番地　荘司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　今井甚太郎
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鈴屋町　眞明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

醫學博士 原 榮先生立案講述

通俗 肺病豫防及私宅療養教則

正確有效なる肺結核療養法を行はんと欲せば豫防及養生の根本觀念に通曉するより緊急なるはなし。本書は其根本觀念を社會に普及せんが爲め、在來の養生書と異り最近の肺病療養法をば悉く簡明なる七十餘條の教則に列擧し、一々詳細なる註解を加へ、更に應急處置、食餌法百餘項を附録とす、實に肺病患者最良の教科書なり。家庭醫、家族、看護人諸君は之れに據り直ちに今日より最も有效なる療養の準備に着手せよ、正確なる療養の着手若し數日を遲るれば肺結核患者治癒の時日は乃ち數月を遲る可し、此書を讀みて尚肺病の不治を嘆ずる者ありや。

全壹册 菊判洋裝美綴 正價金八拾錢 郵税六錢

吳博士序

東京醫科大學精神病學教室 東京府巣鴨病院醫員 醫學士 杉江董先生述

通俗 精神病講話

全一册 四六判美綴 精巧寫眞版圖畫 多數插入 正價金五拾錢 郵税六錢

人一度該病に罹るや、直ちに以て恢復の策無きものとして袖手傍觀措まゝに病魔の蹂躙するに任かす、然りと雖、精神病の原因發生は如何なるものなるかを熟知し、之れが豫防治療の道を講ずるに於ては必しも精神病は每に至難不治の疾病に非ざることを斷言するに憚からず弊堂茲に見る所あり多年東京醫科大學精神病學教室に於て吳博士指導の下に本病を研究せられつゝある杉江學士に乞ひて本書を公にす。解説平易簡明、一は以て家庭の讀物となり、一は以て醫家教育家の參考書となる、卷中精神病患者の寫眞數十葉を插入す。蓋し本邦に於て此種の書籍は本書を以て嚆矢とす

東京市本郷區龍岡町・振替東京一四八一番

發行所 〔電話下谷一六七二番〕〔電話下谷四〇七九番〕 吐鳳堂書店